



Timecode Systems

GENERATE. SYNC. SHARE



Manual Issue 1.0

最新版のユーザーガイドはメーカーページでご確認ください

www.support.timecodesystems.com

UltraSync ONE

ユーザーガイド

Copyright Notice - Timecode Systems Limited

All rights reserved. No part of this publication may be reproduced without the expressed written permission of Timecode Systems Ltd.

Timecode Systems Ltd shall not be liable to the purchaser of this product or third parties for damages, losses, costs, or expenses incurred by the purchaser or third parties as a result of accident, misuse or abuse of this product or unauthorised modifications, repairs, or alterations to this product, or failure to strictly comply with Timecode Systems Ltd operating and installation instructions.

目次

UltraSync ONEをご購入いただきありがとうございます。

Chapter 1 : UltraSync ONE 概要

UltraSync ONEで同期する	10
UltraSync ONEのオンとオフを切り替える	11
ディスプレイおよび制御	13
OLED	13
ステータスインジケータLED	14
Up / Down	15
Select	15
ポート	16
DIN 1.0/2.3 - BNCケーブル	17
UltraSync ONEを充電する	18
UltraSync ONEを取り付ける	19
技術仕様	20

Chapter : 2 ネットワークとモード

マスターとスレーブ	24
スレーブがマスターと通信していることを確認する方法は?	26
スレーブがマスターを見つけられないときどうなりますか?	27
同じネットワーク内に複数のマスターが存在する場合	29
RFネットワーク	30
RFネットワークとは?	30
BLINKネットワーク	32
BLINKネットワークとは?	32
マスターTX	34
RFスレーブ	36
EXT LTC入力	37
RFスレーブに対するEXT LTC入力、出力	38
有線デバイスに対するEXT LTC入力、出力	39
フリーランおよびジャミング	40
スタンドアロンデバイスとしてUltraSync ONEをフリーランさせる	40
外部タイムコードソースに対するジャミング	42
SYNC経由の出力	44

Chapter 3 : クイックセットアップ

準備 - UltraSync ONEを設定する前に	46
入門 - マスターTXモード	47
入門 - RFスレーブモード	47
入門 - EXT LTC入力	48
RFスレーブおよび有線デバイスに対するマスター	49
有線デバイスにのみマスターのタイムコードを送信する	53
UltraSync ONEをRFスレーブとして動作させる	55
RFスレーブはマスターとどのように同期しますか?	57
UltraSync ONEへのLTC入力を設定をする	59
スタンドアロンのUltraSync ONEからタイムコードを送信する	62
UltraSync ONEを信号にジャミングさせる	64

Chapter 4 : 構成を設定する

RF周波数の国/地域を設定する	68
タイムコードモードを設定する	69
RFチャンネルを設定する	72
マスターのタイムコードを設定する	77
1秒あたりのフレームレートを設定する	78
ユーザービットを設定する	79
SYNC出力を設定する	81
LTCレベルを設定する	84
ステータスインジケータLEDの輝度を変更する	85
画面の輝度を変更する	86
画面調光タイマーを変更する	87
表示を回転させる	88
ボタンロックを設定する	89

Chapter 5 : ステータス情報

メイン画面	92
バージョン番号とシリアル番号	93
電源およびバッテリーのステータス	94
同期ステータス	95
SYNC出力ステータス	96
LTC出力ステータス	97

Chapter 6 : BLINK Hub

BLINK Hubを使用するリモート設定	100
----------------------------	-----

Chapter 7 : 保証および適合

保証	102
品質に関する宣言	103
外部アンテナの使用	103
RF曝露警告に関する声明 :	103
FCC警告に関する声明 :	103
カナダ産業省の声明 :	104
EC適合宣言	105

Chapter 8 : トラブルシューティングおよびFAQ

トラブルシューティング	108
UltraSync ONE スレーブがマスターに接続されません	109
UltraSync ONEスレーブが誤ったマスターに接続されます	109
UltraSync ONEの[Select]ボタンが反応しません	109
UltraSync ONEのバッテリーが充電されません	110
工場出荷時設定に復元する	111
リセット	112
FAQ (よくある質問)	113
UltraSync ONEをマスターユニットとして使用することはできま すか?	113
マスターフレームは、ドロップフレームタイムコードを使用する ことができますか?	113
UltraSync ONEの再同期には、どのくらいの時間がかかりますか?	113

Chapter 9 : 安全性および廃棄について

バッテリーの安全性および廃棄について	116
バッテリーの安全性について	116
廃棄およびリサイクルについて	117

索引

UltraSync ONEを ご購入いただきありがとうございます。

Timecode SystemsのUltraSync ONEをお選びいただき、誠にありがとうございます。UltraSync ONE は、コンパクトで軽量の設計にもかかわらず、最小 25 時間のバッテリー駆動時間をほこります。タイムコードのマスター機としても、スレーブ機としても動作させる事ができます。UltraSync ONEは、市場でもっとも先進的なタイムコード同期ソリューションです。



このユーザーガイドには、UltraSync ONEを使用する上で、必要な情報がすべて記載されています。

タイムコードの革命が、ここから始まります...

Chapter 1

UltraSync ONE 概要

本章では、UltraSync ONEの画面、ボタン、ポートに関する情報および技術仕様について記述しています。

UltraSync ONEで同期する	10
UltraSync ONEのオンとオフを切り替える	11
ディスプレイおよび制御	13
ポート	16
UltraSync ONEを充電する	18
UltraSync ONEを取り付ける	19
技術仕様	20

Overview

UltraSync ONEで同期する

UltraSync ONEは、高精度タイムコードジェネレータと、マルチチャンネルデジタル受信機を兼ね備えた製品です。



UltraSync ONEを以下の目的で使用することができます：

- カメラ、サンドミキサー/レコーダーに、タイムコード、GenLock、Word Clockを提供するスタンドアロンデバイス
- 他のTimecode Systems製品を同期させるためにタイムコードを提供するタイムコードマスター
- 「マスター」デバイスからタイムコードを受信し、このタイムコードをカメラ、サウンドミキサー/レコーダーに提供するタイムコードスレーブ

これらのモードの詳細については、ネットワークとモード (P23参照)。



Tip: UltraSync ONEを:pulseと一緒に使用する場合、BLINK Hubアプリケーションに自由にアクセスすることができます。UltraSync ONEを構成かつ監視するためアプリケーションを使用することができます。詳細は、BLINK Hubを使用するリモート設定 (P100)をご参照ください。

UltraSync ONEのオンとオフを切り替える

UltraSync ONE をオンに切り替えるには：

1. **[Select]** ボタンを長押ししてください。



UltraSync ONE画面が点灯し、次のメッセージが表示されます：

Push Up/Dn twice to switch on

2. **[up]**または**[down]** ボタンを2回押して、UltraSync ONEをオンに切り替えます。これは、誤ってUltraSync ONEをオンに切り替えることを防止するために設計された操作方法です。5秒以内に**[Up]**または**[Down]**ボタンを2回押さない場合、UltraSync ONEはオフのままです。

UltraSync ONEがオンになると、標準の状態ではメイン画面が表示されます (ディスプレイおよび制御 P13を参照)。



Note: **[Select]**ボタンを押しても、UltraSync ONEがオンにならない時には、バッテリーを充電してください (UltraSync ONEを充電する P18を参照)。UltraSync ONEがオンになっても、バッテリー残量が少なくなっている場合には、LEDライトが赤色に切り替わります。

UltraSync ONE を**オフ**に切り替えるには：

1. 次のメッセージが表示されるまで、**[Select]**ボタンを長押しします：

Push Up/Dn twice to switch off

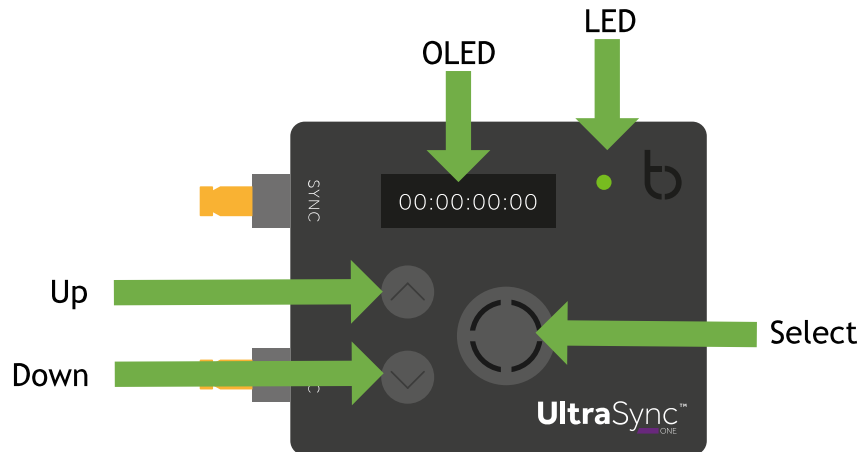
2. **[Up]**または**[Down]** ボタンを2回押して、UltraSync ONEを**オフ**に切り替えま
す。



Note: 5秒以内に**[Up]**または**[Down]**ボタンを2回押さない場合、
UltraSync ONEの電源は切れません。ディスプレイにはメイン画面が表示
されます。

ディスプレイおよび制御

UltraSync ONEは簡単に設定、使用することができます。シンプルなメニューシステムでデバイスの設定が行えます。



- OLED (P13参照)
- ステータスインジケータLED (P14参照)
- Up / Downボタン (P15参照)
- Selectボタン (P15参照)

他のデバイスをUltraSync ONEに接続する方法については、ポート (P16) をご参照ください。

OLED

UltraSync ONEをオンに切り替えると、OLEDが点灯し、ステータス情報を表示します。またOLEDは、メッセージ、その他のステータス情報、UltraSync ONEを設定するために使用するメニューとオプションを表示します。



上述の「Main」画面を含む様々なステータス表示については、メイン画面 (P92) をご参照ください。

ステータスインジケータLED

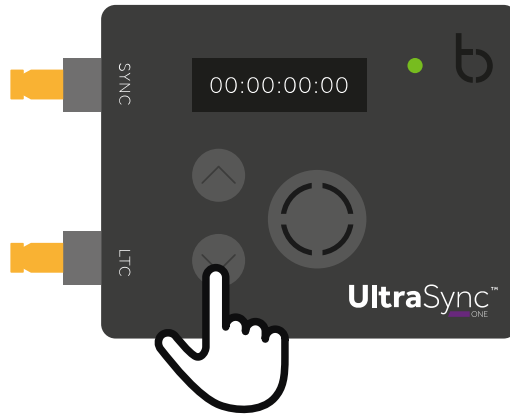
OLEDディスプレイの右側にあるLEDは、状態によって色が変わるステータスインジケータとして機能します。

色	説明
緑色	<p>以下の場合、LEDは緑色に点滅します：</p> <ul style="list-style-type: none"> UltraSync ONE が、Free Run/Jam-EXTモードで、「マスター」のタイムコード信号に対して、正常にジャミングした場合。 UltraSync ONE が、RF スレーブモードまたはEXT LTC Intモードで、マスターと同期している場合。 UltraSync ONE が、RFネットワークにおけるマスターデバイスである場合。 UltraSync ONE がオフに切り替わり、バッテリーが完全に充電された場合、LEDは緑色に点灯します。
青色	<p>以下の場合、LEDは青色に点滅します：</p> <ul style="list-style-type: none"> UltraSync ONEが、Free Run/Jam-EXTモードで、「マスター」のタイムコードソースからのジャミング信号を待機している場合。 UltraSync ONEが、RF SlaveモードまたはEXT LTC Intモードで、マスターと同期していない場合。
赤色	<p>以下の場合、LEDは赤色に点滅します：</p> <ul style="list-style-type: none"> UltraSync ONEのバッテリー容量が減少し、充電中の場合 (UltraSync ONEがオンになっている場合は、充電中でもLEDは赤く点滅しません)。 UltraSync ONEのバッテリー容量が低下している場合。 UltraSync ONEが、マスターデバイスと再同期中の場合 (LEDは、2回素早く点滅します)。

マスターおよびスレーブデバイスについては、マスターとスレーブ (P24) の説明を参照してください。

Up / Down

[Up]および[Down]ボタンを使って、メニューオプションをスクロールしたり、最上位ステータス表示画面に移動したりします。



Select

[Select]ボタンで、メニューまたはオプションの選択や、UltraSync ONEのオン・オフを切り替えることができます。

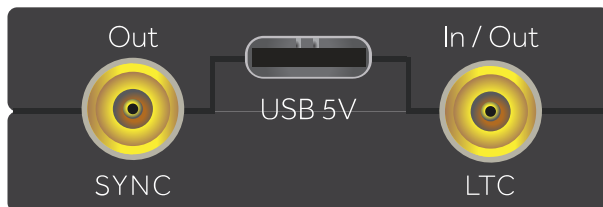


[Up]および[Down]ボタンでメニューやオプションをスクロールさせ、選択項目や設定を変更します。[Select]ボタンを1度押して、確定します。

UltraSync ONEのオン・オフを切り替えるには、[Select]ボタンを長押しします(詳細は、UltraSync ONEのオンとオフを切り替える (P11) を参照してください)。

ポート

UltraSync ONEには、外部デバイス (LTCまたはSYNC出力) およびUSB-C充電器を接続するために使用する3つのポートがあります。



ポート	説明
SYNC	GenLockをカメラに、Word Clockをサウンドミキサー / レコーダーに、リニアタイムコード(LTC) を互換デバイスに出力するために使用します。
LTC	リニアタイムコード (LTC) を送受信するために使用します。
USB-C	電源に接続し、UltraSync ONEを充電するために使用します。詳細については、UltraSync ONEを充電する (P18) をご参照ください。 また、USB-Cポートを使って、コンピューターに接続し、アップデートをダウンロードすることができます。 UltraSync ONEのファームウェアを更新する手順については、下記までアクセスください。 www.timecodesystems.com/support/firmware



Note: 最新機能と最良の動作で利用するためには、UltraSync ONEのファームウェアは最新の状態に保ってください。

DIN 1.0/2.3 - BNCケーブル

SYNCおよびLTCポートは、DIN 1.0/2.3コネクタを装備しています。これらのポートに他のデバイスを接続する場合は、UltraSync ONEに付属のDIN 1.0/2.3 - 直角BNCケーブルを使用してください。

ケーブルは、カラーコードで見分けることができます。

ケーブル	ポート
青色	LTC
赤色	SYNC

UltraSync ONEを充電する

UltraSync ONEにはバッテリーが内蔵されており、1回の充電で、**最小25時間**使用することができます。25時間の駆動時間は、UltraSync ONE の RF、 GenLock/ Word Clock、 OLED画面の全てを稼働させると仮定して計算されています。使用する機能を節約し、OLEDの輝度を暗く設定することにより、バッテリー充電をより長持ちさせることが可能です。



Note: UltraSync ONEを極めて高温な環境で使用すると、バッテリー寿命が短くなることがあります。非常に暑い環境および非常に寒い環境はバッテリー性能に影響を与えることがあります。

UltraSync ONEのバッテリー残量がなくなると、LEDが赤色に点滅し、画面に次のメッセージが表示されます：



Battery Power Critical

またバッテリー状態は、チャンネル番号の右隣（メイン画面右下）にバッテリーアイコンで示されます。バッテリーアイコンの白色部分が、バッテリーの充電残量を表します。下の図では、バッテリーアイコンの内部は黒色（白色部分なし）なので、バッテリーの充電残量が非常に少ないことを意味します。



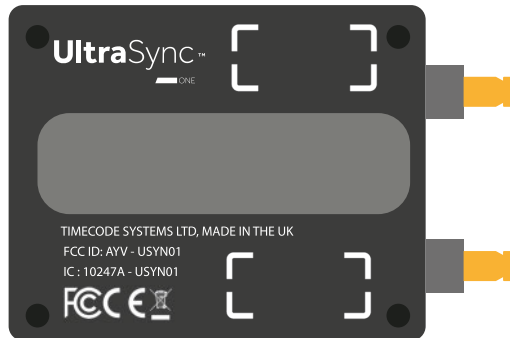
00:18:13:19
UltraSync
Int-Gen TX Ch. FC03 

バッテリーの充電残量は、バッテリーステータス画面でも確認できます（電源およびバッテリーのステータス P94 を参照）。

バッテリーを再充電するには、UltraSync ONEに付属のUSB-C – USBケーブルと互換性のある充電器ソケット（別売り）が必要です。USB-C – USBケーブルを電源および UltraSync ONE の左端の USB-C ポートに接続します（ポート P16 を参照）。

UltraSync ONEを取り付ける

UltraSync ONEを取り付けるには、フック固定式のベロクロストラップをユニット背面中央に固定して、UltraSync ONEを他の装置に取り付けます。



Note: 近日中に取り付けポーチの販売を開始する予定です。

技術仕様

カテゴリ	仕様
寸法	55mm × 44mm × 17mm (幅 × 高さ × 奥行)
OLEDディスプレイ	青色 128 × 32ピクセル
タイムコードジェネレータ精度	TCX0 0.5ppm (フリーラン時) 実測24時間に約1フレームのずれ RFがマスターにロックされている時は0ppm
サポートされるFPSモード	23.98 24.00 25.00 30.00D (ドロップフレーム) 30.00 29.97D (ドロップフレーム) 29.97
外部電源	USB-C (5V DC)
内部電源	内蔵リチウムポリマー (3.7Vバッテリー800mAh 2.96Wh、 ユーザーによるバッテリー交換不可)
期待されるバッテリー持続時間	最低24時間 (全機能を使用時)
充電所要時間	3時間
LTC入力/出力	DIN 1.0/2.3コネクタ。 入力または出力 (選択されたモードによる)。
SYNC出力	DIN 1.0/2.3コネクタ。 Genlock、Word Clock、タイムコード (LTC) を出力するように設定可能。

カテゴリ	仕様
マルチチャンネルデジタル トランシーバー	865.050MHz ~ 923.200MHz
アンテナ	内部アンテナ (ダイバーシティ受信機能付き)
通信範囲 *	遮蔽物がない場合、マスターと同期できる通常範囲は、約200m (256フィート・219ヤード) です。スレーブとマスターの間に障害物があると、範囲は短くなります。

* 通常範囲。範囲は変化する場合があります。

Chapter 2 ネットワークとモード

UltraSync ONEを含むTimecode Systemsデバイスは、約200m*を超える距離をワイヤレスで同期することができます。同期するには同社独自の無線プロトコルを使用し、ネットワークで動作するように設定する必要があります。

* 遮蔽物がない場合

以下の章では、様々な種類のネットワーク、同期に使用するマスターとスレーブの関係、UltraSync ONEがサポートする様々なタイムコードモードについて説明します：

マスターとスレーブ	24
RFネットワーク	30
BLINKネットワーク	32
マスターTX	34
RFスレーブ	36
EXT LTC入力	37
フリーランおよびジャミング	40
SYNC経由の出力	44

Networks and Modes

マスターとスレーブ

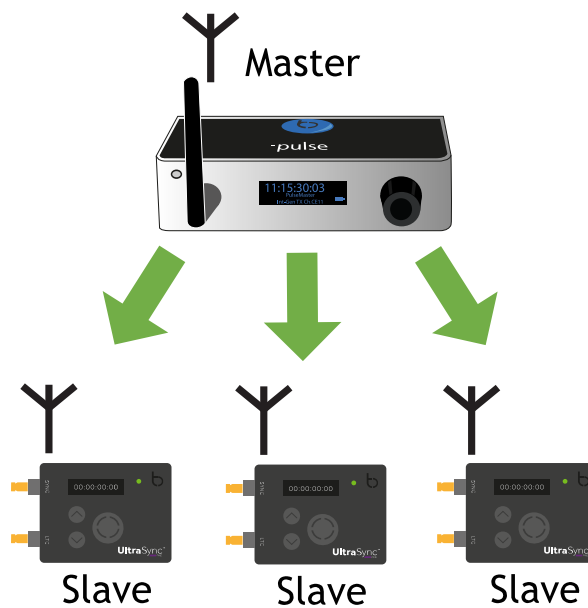
2台以上のTimecode Systems製品を同期するには、それらが同じネットワーク内にある必要があります。ネットワーク内では、1台のデバイスをマスターとして動作するように設定し、他のデバイスをスレーブとして動作するように設定する必要があります。

マスターとはメインのデバイスであり、以下を行うことができます：

- タイムコードを生成し、接続されている他の全デバイスに転送すること
- タイムコードを受信し、再送信すること

マスターは、スレーブにそのタイムコードを無線経由で送信します。スレーブがタイムコードを受信すると、個別のタイムコード設定をそれに一致させるよう変更します。

スレーブは定期的にマスターと通信し、同期していることを確認します。



上の図では、UltraSync ONEユニットは、スレーブとして動作するように設定されています。マスターは、Timecode Systems:pulseです。RFネットワークでは、UltraSync ONEはスレーブまたはマスターとして動作することができますが、BLINKネットワークでは、スレーブとしてのみ動作することができます。

スレーブがマスターの範囲外になったとき、スレーブのタイムコードはフリーランします（マスターとスレーブの接続が切れた場合 P27参照）。

マスターとスレーブの関係は、RFネットワーク (P30) およびBLINKネットワーク (P32) で説明します。

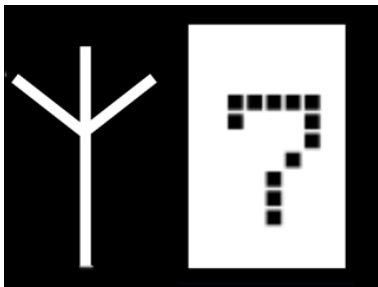
以下もご参照ください：

- マスターとスレーブの接続が切れた場合 (P27参照)
- スレーブがマスターと通信していることを確認する方法 (P26参照)
- 同じネットワーク内に複数のマスターが存在する場合 (P29参照)
- RFスレーブ (P36参照)

スレーブがマスターと通信していることを確認する方法

メイン画面表示より、スレーブがマスターに接続されていることを確認することができます。

モスレーブとマスターが通信しているときは、右上の隅にあるアンテナの形のアイコンが点滅します。アンテナアイコンの右にある数字は信号強度です (強度は0～7の数字で示され、7が最大強度)。



Note: マスターとの接続が確立・維持されているとき、LEDは緑色に点滅します。

スレーブがマスターを見つけられないときどうなりますか？

UltraSync ONEが、マスターの範囲外となる場合があります。このような状況では、UltraSync ONE はマスターからタイムコードを受信できないので独自の内部タイムコードを使用します。これは「フリーラン」と呼ばれます。

通常、マスターが範囲外にあるとき、UltraSync ONEはフリーランを行います。

マスター - スレーブ接続障害について、考慮すべきシナリオがいくつかあります：

マスターに対するスレーブ接続	結果
最初にスレーブがマスターへの接続を試みた際、接続が確立できなかった。	スレーブは独自のタイムコードを使ってフリーランします。
スレーブがRFマスターに接続されていたものの通信が遮断。RFマスターが、UltraSync ONE、SyncBac PRO、またはminitrx+の場合。	スレーブは独自のタイムコードを使ってフリーランします。約1日間、マスターのタイムコードへの同期を試みません。 スレーブは範囲内に初めて入ってきた、スレーブと同じRFチャンネルを使用するマスターに接続します。
スレーブがオンに切り替わり、BLINKマスターに接続したものの、通信が遮断。BLINKマスターは、:pulseまたは:waveの場合。	スレーブは独自のタイムコードを使ってフリーランします。約1日間、マスターのタイムコードへの同期を試みません。 スレーブは、以前に接続されていたBLINKマスターとのみ再接続します。範囲内に入ってくる他のマスターは無視します。スレーブを異なるマスターに接続させる場合は、スレーブを再起動する必要があります。

例：UltraSync ONE範囲外のマスター

2台の車（車Aと車B）によるカーチェイスシーンを撮影すると仮定します。車は市内の異なるルートを通り、UltraSync ONEユニットに接続された車載カメラを使って、そのアクションを撮影します。

車AのUltraSync ONEは、マスターTXモードで動作し、RFチャンネル4を使用するように設定します。

車BのUltraSync ONEは、RFスレーブモードで動作し、RFチャンネル4を使用するように設定します。

撮影開始時、車Aと車BのUltraSync ONEは、通信範囲内にあるため同期します。

カーチェイスが始まり、車Aが速度を上げて先行します。車Bが追いかけて、計画された通り異なる通りに進路を変更します。この時点で、UltraSync ONEスレーブは、UltraSync ONEマスターの範囲外です。

マスターに接続できない車BのUltraSync ONEは、独自のタイムコードを使用します。直前まで、マスターUltraSync ONEに同期されていたので、スレーブUltraSync ONEのタイムコードは、マスターのタイムコードとまだ一致しています。

シーンの終了時に、車Aと車Bが再度合流し、UltraSync ONEの通信範囲内になります。スレーブUltraSync ONEとマスターUltraSync ONEが再接続し、再度同期します。

同じネットワーク内に複数のマスターが存在する場合

Timecode Systemsデバイスはネットワーク (RFチャンネル) あたりマスターデバイスがひとつになるように設定する必要があります。これにより、全スレーブデバイスが、同じタイムコードデータ (マスターデバイスのタイムコード) に同期することが保証されます。

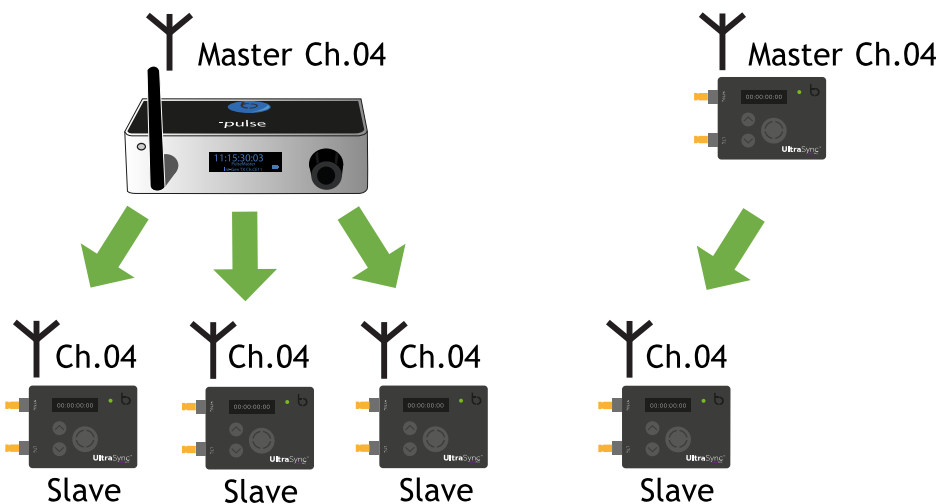
同じネットワーク内に複数のマスターが存在する場合、各スレーブは、最初に検出したマスターに接続します。全スレーブが同じマスターに接続している保証はありません。したがって、間違ったタイムコードを使用するスレーブが存在してしまう可能性があります。このミス回避するため、ネットワーク内のデバイスすべてが同一のユニークなチャンネルを使用するように設定します。

例：不完全なネットワーク構成

全デバイスがRFチャンネル4を使用するよう設定されていると仮定します。1つの:pulseマスターと3つのUltraSync ONEスレーブが存在します。

ネットワーク内の全デバイスをオフに切り替え、新しいUltraSync ONEをネットワークに追加します。これをマスターTXモードで動作するよう設定します。デバイスをオンに切り替えると、ネットワーク内に2つのマスター (:pulseと新しいUltraSync ONE) が存在することになります。

スレーブは、最初に検出したマスターに接続しようとします。2つのスレーブが:pulseマスターに接続し、:pulseに同期し、他のスレーブが新しいUltraSync ONEに接続し、それに同期したとします。結果、ネットワーク内のデバイスは、同一のタイムコードになりません。



RFネットワーク

2 台以上のTimecode Systems製品を同期させるには、ネットワーク内で操作できるように設定する必要があります。ネットワークには異なる 2 種類があります。:

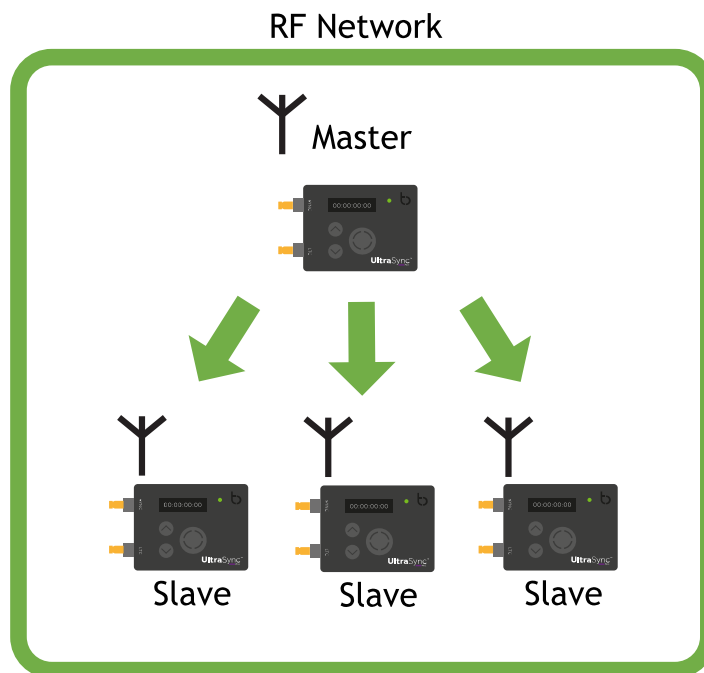
- RFネットワーク
- BLINKネットワーク

この章では、RFネットワークについて説明します。BLINKネットワークについては、BLINKネットワーク (P32) をご参照ください。

RFネットワークとは?

RFネットワークとは、同じ無線周波数 (RFチャンネル) 上で通信するように設定された全Timecode Systemsデバイスのグループです。RFネットワーク内のデバイスは、200m* (内部アンテナを使用する場合) の距離まで相互に同期することができ、弊社独自のRFプロトコルを使って通信します。

* 遮蔽物がない場合



このネットワークでは、デバイスの1つをTXマスターとして設定し、その他をRFスレーブとして設定する必要があります。

マスター機は、以下のデータを RF 経由でスレーブ機に送信します。：

- タイムコード
- 1 秒あたりのフレーム数
- ユーザービット (メタデータ)

スレーブ機がデータを受け取ると、スレーブ機内の設定はマスター機に合わせるように更新され、同期します。

RFネットワークにおけるデバイス間の関係については、マスターとスレーブ (P24) をご参照ください。

BLINKネットワーク

2台以上のTimecode Systems製品を同期させるには、ネットワーク内で操作できるように設定する必要があります。ネットワークには異なる2種類があります。:

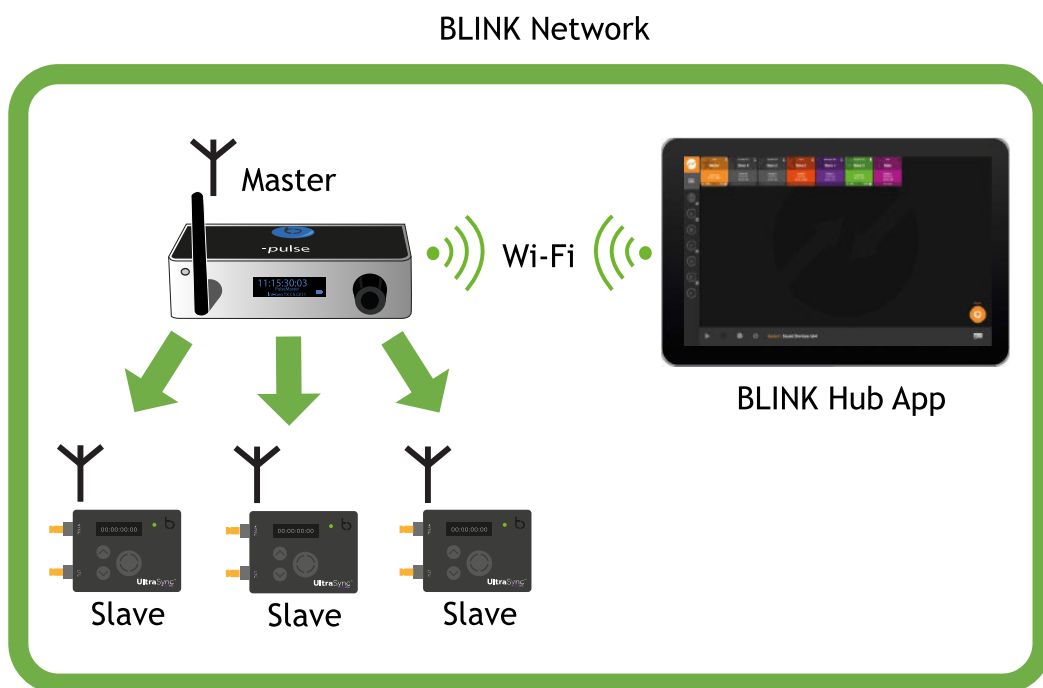
- RFネットワーク
- BLINKネットワーク

本章では、BLINKネットワークについて説明します。RFネットワークの詳細については、RFネットワーク (P30) をご参照ください。

BLINKネットワークとは?

BLINKネットワークとは、リモート制御およびリモート監視機能を追加したRFネットワークです。追加機能は、無料のBLINK Hubアプリケーションにより提供されます。

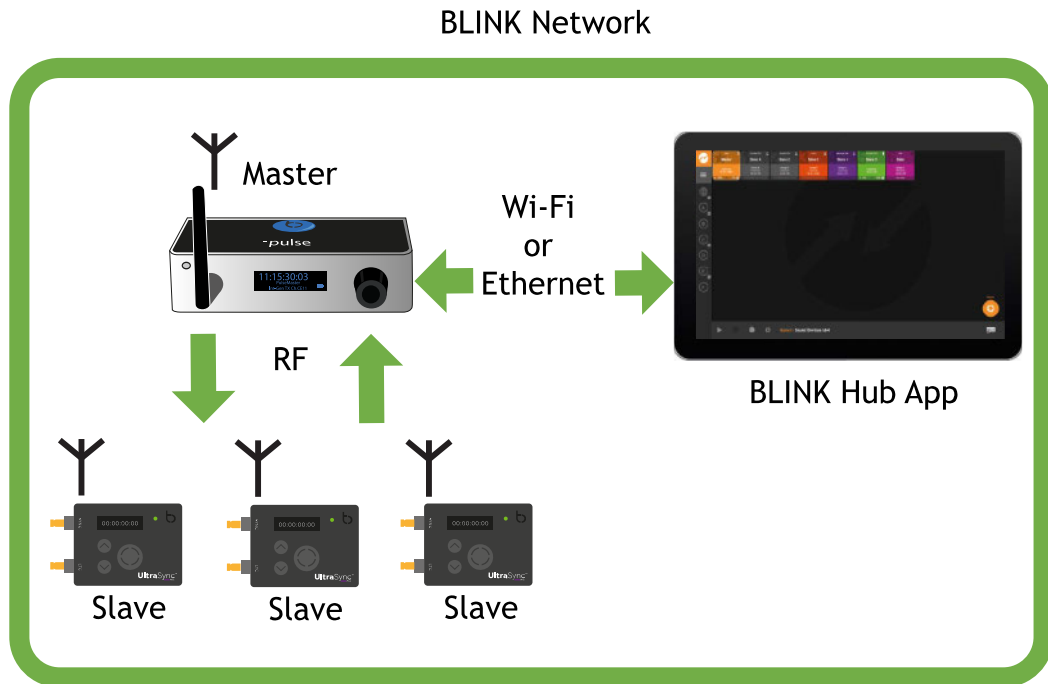
BLINKネットワークでは、マスターデバイスは、:pulseまたは:waveである必要があります。次の図では、マスターは:pulseです。Wi-Fiを経由して、BLINK Hubに接続します。



:pulseがマスターであり、RFを経由してスレーブと通信することに注意してください。:pulseとスレーブ間の通信は、通常のRFネットワークです。したがって、:pulseはRFマスター兼BLINKネットワークマスターとして機能します。

BLINK Hubアプリケーションは、Wi-Fiを経由して、:pulseと通信します(:pulseとは、Wi-Fiまたはイーサネットを経由して通信します。:waveとはWi-Fiを経由して通信します。

BLINKネットワークマスターは、スレーブデバイスとBLINK Hubアプリケーションの「仲介者」です。



コンピューター、タブレット、スマートフォンに BLINKハブアプリケーションをインストールし、一部のTimecode Systems製品のリモート監視とリモート制御に使用することができます。

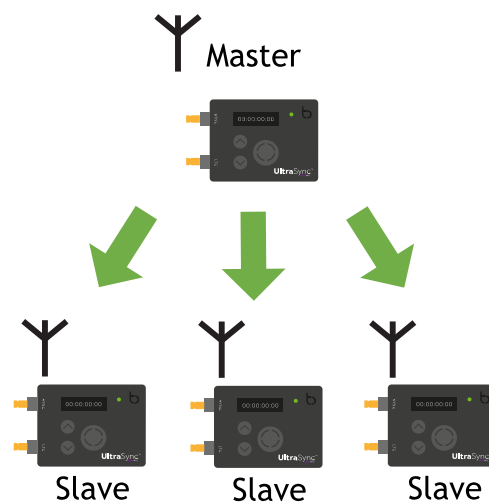
BLINK Hubの詳細については、BLINK Hubを使用するリモート設定 (P100) をご参照ください。

マスターTX

UltraSync ONEをマスターTXモードで動作するように設定できます。
ここでは、RFネットワークとは? (P30参照) のマスターとして動作するように設定します。以下の場合、マスターTXモードを使用する必要があります：

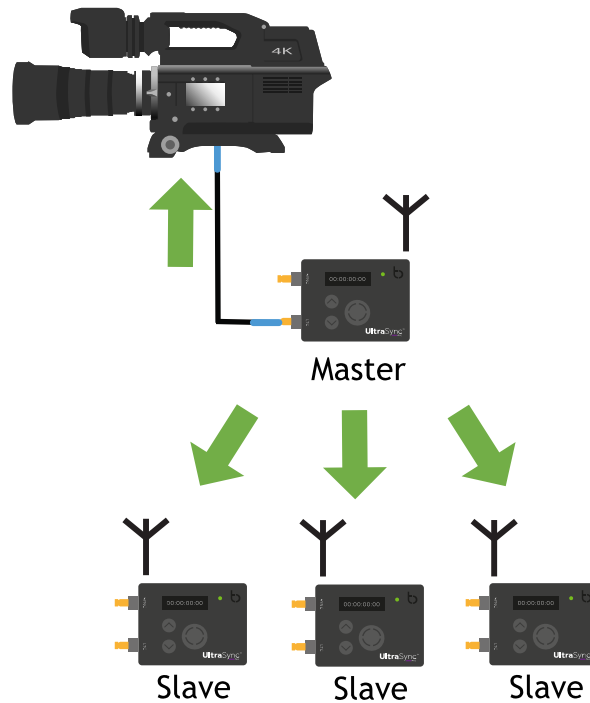
- UltraSync ONEを独立して使用する場合 (UltraSync ONEは、接続されたデバイスにタイムコードを提供し、他のTimecode Systems製品とは同期しません)。
- 複数のTimecode Systemsデバイスがあり、それらをUltraSync ONEに同期させる場合。

マスターのUltraSync ONEは、タイムコード、FPS (1秒あたりのフレーム数)、ユーザービットを、範囲内の同じRFチャンネル上で通信している全スレーブデバイスに送信します。



Note: UltraSync ONEのLTCポートに接続されたデバイスからタイムコードを受信させる場合は、代わりにEXT LTC入力モードを使用します (EXT LTC入力 P37 を参照)。

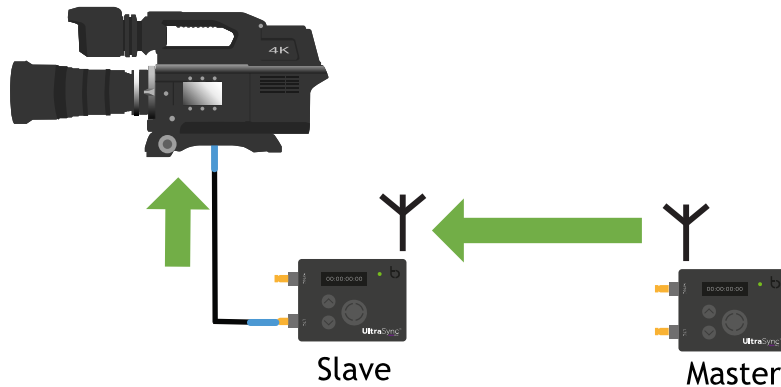
また、マスターUltraSync ONEは、LTCポートに接続されたデバイスにタイムコードデータを送信します。



UltraSync ONEをRFネットワークのマスターとして設定する場合は、UltraSync ONEをマスターTXとして動作させる (P49) をご参照ください。マスターおよびスレーブの概念については、マスターとスレーブ (P24) をご参照ください。

RFスレーブ

UltraSync ONEに別のTimecode Systemsデバイスからタイムコードを受信させる場合は、**RFスレーブモード**で動作するように設定します。UltraSync ONEは、ネットワーク内のマスターデバイスへの接続を試みます。マスターの通信範囲内にある場合、UltraSync ONEはマスターのタイムコードに同期します (RFネットワーク P30 参照)。



UltraSync ONEをネットワーク内のマスターデバイスのタイムコードに同期させるには、RFスレーブモードを使用する必要があります。

マスターが通信範囲内にあり、UltraSync ONEを同じRFチャンネル上で通信する限り、UltraSync ONE はスレーブとして、マスターデバイスからタイムコードを受信します。

マスター機は、以下のデータを RF 経由でスレーブ機に送信します。：

- タイムコード
- 1秒あたりのフレーム数
- ユーザービット (メタデータ)

スレーブ機がデータを受け取ると、スレーブ機内の設定はマスター機に合わせるように更新され、同期します。

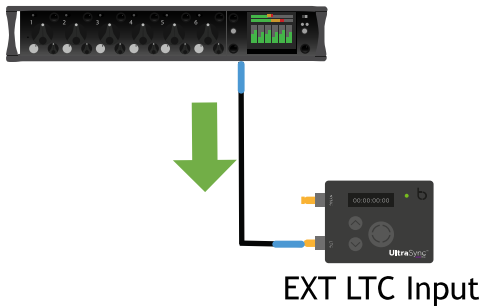


Note: スレーブがマスターに接続できない場合、フリーランモードで動作します (スレーブがマスターを見つけられないときどうなりますか? マスターとスレーブ P24を参照)。

UltraSync ONEをRFネットワークのマスターとして設定する場合は、UltraSync ONEをRFスレーブとして動作させる (P55) をご参照ください。

EXT LTC入力

LTCポートに接続されたデバイスからタイムコードを受信するよう、UltraSync ONEを設定することができます。その後、タイムコードをUltraSync ONEが使用したり、ネットワーク内のスレーブUltraSync ONEを含む他のデバイスに転送したりすることができます。



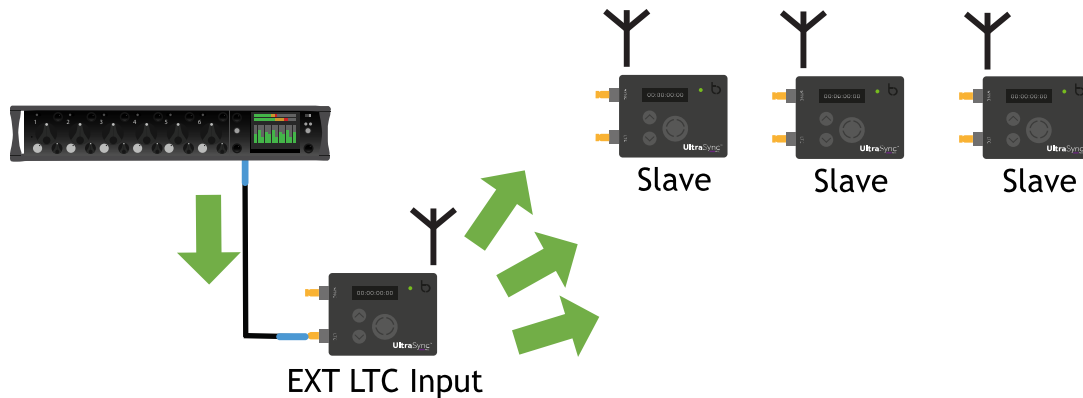
Note: EXT LTC入力モードは、マスターモードです。マスターおよびスレーブの概念については、マスターとスレーブ(P24) をご参照ください。

EXT LTC入力モードを使用するには、2通りの方法があります：

- RFスレーブに対するEXT LTC入力、出力 (P38参照)
- 有線デバイスに対するEXT LTC入力、出力 (P39参照).

RFスレーブに対するEXT LTC入力、出力

EXT LTC入力モードを使用する最も一般的な方法は、外部デバイスからタイムコードを受信し、RFを経由してスレーブに送信するように、UltraSync ONEを設定する方法です。



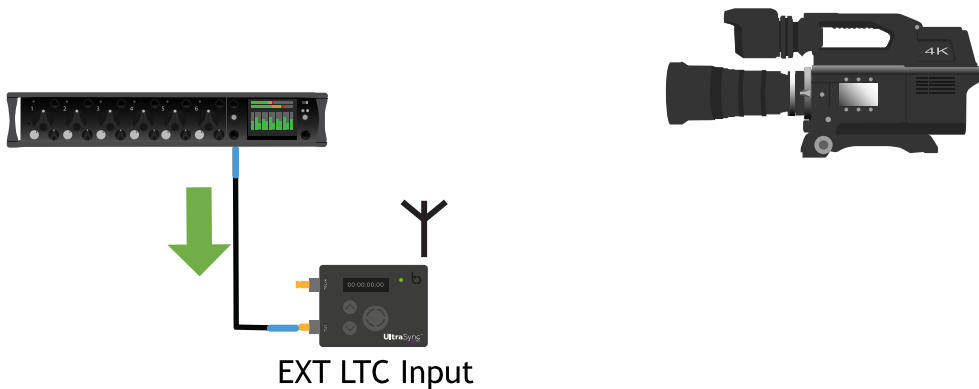
EXT LTC入力モードでは、UltraSync ONEは、LTCポートに接続された外部デバイスから、タイムコード、FPS、ユーザービットを受信します。また、RFネットワークにおけるマスターとして機能します。したがって、マスターと同じRFチャンネルを使って、範囲内にあるスレーブデバイスにタイムコード、FPS、ユーザービットを送信します。

スレーブがデータを受信すると、それ自身のタイムコードおよびFPS設定がマスターと一致するよう更新します。またスレーブが、ローカルユーザービットを使用する構成なのか、外部ユーザービットを受け入れることができるかにより、ユーザービット設定が一致するよう更新します。

UltraSync ONEでEXT LTC入力モードを使用するよう設定する方法については、LTC入力を使用するようにUltraSync ONEを設定する (P59) をご参照ください。

有線デバイスに対するEXT LTC入力、出力

RFネットワークを使用せずに、EXT LTC入力モードを使用するようにUltraSync ONEを設定することができます。これは、撮影環境における干渉または無線の使用制限により、無線通信を使用できない場合に有用です。下の図の配置では、UltraSync ONEを外部デバイスに接続し、手動でタイムコード信号に対してジャミングします (フリーランおよびジャミング P40 参照)。



フリーランおよびジャミング (P40参照)



EXT LTC入力モードを使い、UltraSync ONEをRFネットワークを使わずに、独立で動作させる設定方法については、LTC入力を使用するようにUltraSync ONEを設定する (P59)、およびスタンドアロンのUltraSync ONEからタイムコードを送信する (P62) をご参照ください。

フリーランおよびジャミング

UltraSync ONE には、**Free Run/ Jam-Ext**モードがあり、目的に合わせて使い分けます。UltraSync ONE を以下の方法で使用する場合は、この2つのモードから設定する必要があります。

- スタンドアロンユニットとして使用し、そのタイムコードを外部デバイスに提供する場合 (スタンドアロンデバイスとしてUltraSync ONEをフリーランさせる P40 を参照)。
- Timecode Systemsネットワーク以外のサードパーティ製システムにおいて、外部デバイスと同期する場合 (外部タイムコードソースに対するジャミング P42 を参照)。

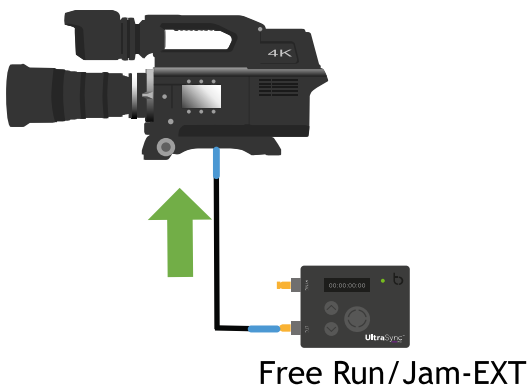


Note: フリーランおよび外部ジャミングワークフローではRFは使用されません。**Free Run/ Jam-Ext** モードでは RFは自動的に無効化され、バッテリーの消費を抑えます。

スタンドアロンデバイスとしてUltraSync ONEをフリーランさせる

UltraSync ONEの、最も一般的な使用法はネットワーク内で使用することです。この場合、マスターデバイスに同期されます。しかし、UltraSync ONEをネットワーク内で使用する必要がない場合、スタンドアロンデバイスとして使用することができます。

UltraSync ONEがスタンドアロンデバイスとして使用されるとき、「フリーラン」していると言います。これはUltraSync ONEが、独自の内部タイムコードを使用し、他のデバイスからタイムコードを受信しないことを意味します。SYNCまたはLTCポートを経由してタイムコードを出力できるので、他のデバイスはUltraSync ONEと同期します。



UltraSync ONEをスタンドアロンデバイスとして動作させるには、**Free Run/ Jam-Ext**モードで動作するよう設定する必要があります (UltraSync ONEを信号にジャミングさせる P64 を参照)。

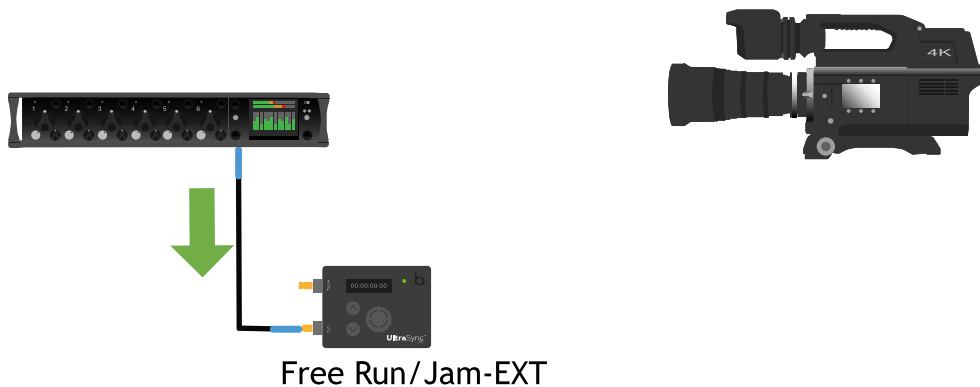
外部タイムコードソースに対するジャミング

UltraSync ONEをTimecode Systemsネットワークの代わりに、サードパーティ製システムにおいて使用する場合、ジャミングを使用する必要があります。これはサードパーティ製システムが、当社独自のRFプロトコルを認識しないためです。ジャミングは、有線接続を使用し、当社のRFプロトコルを使用しません。

ジャミングワークフローは次の通りです：

1. 外部デバイスをUltraSync ONEのLTCポートに接続します。
2. UltraSync ONEを**Free Run/ Jam-Ext**モードで動作するように設定します。
3. UltraSync ONEを外部デバイスのタイムコード信号をジャミングするように設定します。
4. UltraSync ONEを外部デバイスから切断します。
5. 必要に応じて、タイムコードを別のデバイスに出力します。
6. 定期的な間隔 (少なくとも1日あたり2回) で再ジャミングを行い、同期を維持します。

したがって、ワークフローの最初に、UltraSync ONEをタイムコードソースに接続し、次に、その信号に対するジャミングを行うようにします。



Free Run/ Jam-EXT

UltraSync ONEがタイムコード信号に対するジャミングを行った後は、UltraSync ONEを外部デバイスから切断することができます。

この部分のワークフローの詳細については、UltraSync ONEを信号にジャミングさせる (P64) をご参照ください。

上記を行うことにより、UltraSync ONEのタイムコードを別のデバイスに出力することができます。



外部デバイスに由来するタイムコードを UltraSync ONE から出力するには、以下を行う必要があります：

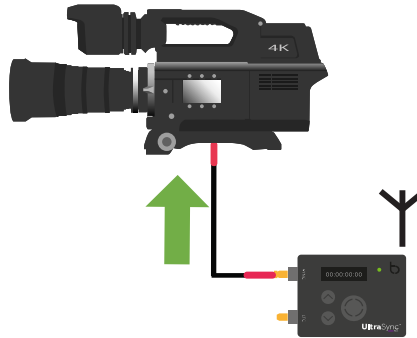
1. UltraSync ONEをUltraSync ONEのタイムコードを受信するデバイスに接続します。
2. UltraSync ONEを**マスターTX**として動作するように設定します。LTCポートまたはSYNCポートを経由して、タイムコードを出力できます (この場合、SYNC出力をLTCに対して設定する必要があります)。

詳細は、[マスターTX UltraSync ONE – 設定 \(P49\)](#) をご参照ください。

タイムコード、ワードクロックまたはゲンロックの出力に SYNC ポートを使用する方法は、[SYNC出力を設定する \(P81\)](#) を参照してください。

SYNC経由の出力

SYNCポートを経由して出力するようにUltraSync ONEを設定できます。



次の信号を出力することができます：

- Genlock
- Word clock
- タイムコード (LTC)

SYNC出力は、UltraSync ONEの全モードで使用することができます。ただし、使用するには Sync O/Pモードに設定する必要があります。また、Sync O/Pレベルの設定が必要となる場合があります。

UltraSync ONEをSYNC出力用に構成する方法については、SYNC出力を設定する (P81) をご参照ください。

Chapter 3 クイックセットアップ

UltraSync ONEの設定にアクセスする方法や、様々なモードについて理解している場合、クイックセットアップで利用を始められます。

準備 - UltraSync ONEを設定する前に	46
RFスレーブおよび有線デバイスに対するマスター	49
有線デバイスのみ (RFスレーブではない) に対するマスター ..	53
UltraSync ONEをRFスレーブとして動作させる	55
RFスレーブはマスターとどのように同期しますか?	57
LTC入力を使用するようにUltraSync ONEを設定する	59
スタンドアロンのUltraSync ONEからタイムコードを送信する	62
UltraSync ONEを信号にジャミングさせる	64

Quick Set Up

準備 - UltraSync ONEを設定する前に

'クイックセットアップ'の説明は、できる限り早く UltraSync ONEを設定できるように書かれています。マスターとスレーブの関係、RF ネットワーク、UltraSync ONEのメニュー操作について、慣れていることが前提です。順を追った詳細な説明や設定に関する追加情報が必要な場合、設定に関する章を参照してください。

開始する前に：

1. 様々なモードおよびネットワークタイプについて理解していることを確認します。これらについては、以下をご参照ください：
 - マスターとスレーブ (P24参照)
 - マスターTX (P34参照)
 - RFネットワーク (P30参照)
 - RFスレーブ (P36参照)
 - EXT LTC入力 (P37参照)
2. モードとその関係について理解した上でUltraSync ONEを設定してください。
3. UltraSync ONEを使用するためのモードについては、入門章を参照してください。入門章では、UltraSync ONEの使用に関連するクイックセットアップ手順を説明しています。
 - 入門 - マスターTXモード (P47参照)
 - 入門 - RFスレーブモード (P47参照)
 - 入門 - EXT LTC入力 (P48参照)



Note: UltraSync ONEを外部デバイスに対してジャミングさせる場合は、UltraSync ONEを信号にジャミングさせる (P64) をご参照ください。

入門 - マスターTXモード

UltraSync ONEをマスターとして動作するよう設定するには、2つの方法があります：

- RFスレーブおよび有線デバイスに対するマスター (P49参照)
- 有線デバイスのみ (RFスレーブではない) に対するマスター (P53参照)

要件に合う設定手順に従ってください。



Note: UltraSync ONEは、Wi-Fiまたはイーサネット機能を有していないので、BLINKネットワークにおけるマスターとして使用することはできません。BLINKネットワークでは、:pulseまたは:waveをマスターにする必要があります。

入門 - RFスレーブモード

UltraSync ONEをRFスレーブとして動作させ、マスターとして動作させている他のTimecode Systemsデバイスのタイムコードと同期するように設定することができます。マスターには、別のUltraSync ONEを含むマスターモードを持つ任意のTimecode Systems製品を使用することができます。しかし、BLINK Hubを経由して、UltraSync ONEを表示できるようにする場合は、マスターは :pulse または :wave にする必要があります。

UltraSync ONEをRFスレーブとして動作するよう設定する場合は、以下の手順に従ってください：

- UltraSync ONEをRFスレーブとして動作させる (P55参照)

UltraSync ONEをRFスレーブとして設定するときに行うマスターとスレーブの同期については、以下をご参照ください：

- RFスレーブはマスターとどのように同期しますか? (P57参照)

入門 - EXT LTC入力

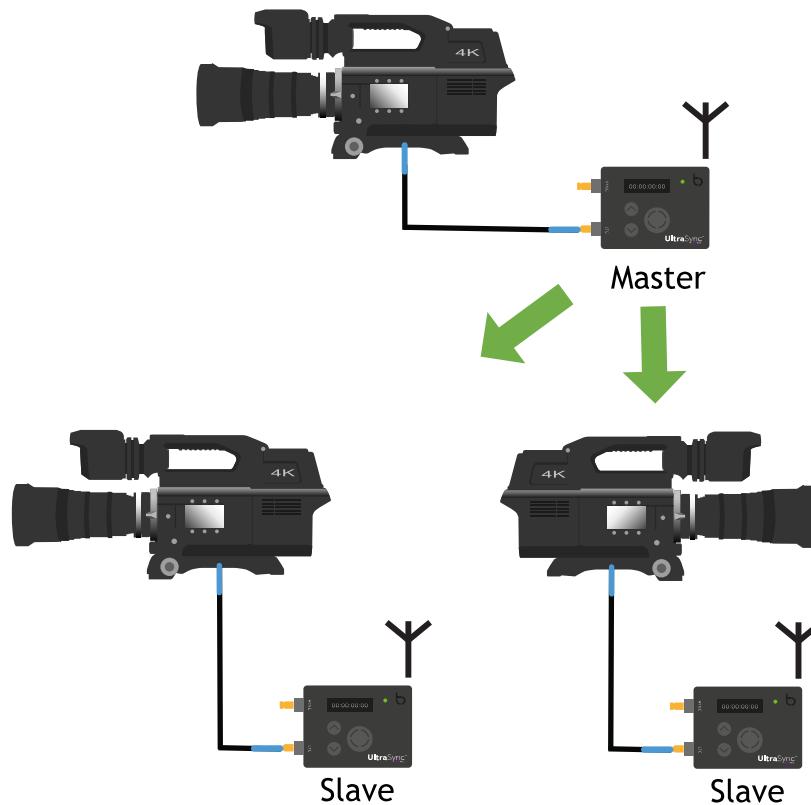
UltraSync ONEは、タイムコード、FPS、ユーザービットデータを外部デバイスから受信し、他のデバイスに転送することができます。この方法で動作させるには、UltraSync ONEをEXT LTC入力モードで使用する必要があります。

UltraSync ONEでEXT LTC入力モードを使用する設定方法は、2通りあります。：

- LTCポートを経由してタイムコードを受信し、無線を経由してタイムコードをスレーブに送信します。LTC入力を使用するようにUltraSync ONEを設定する (P59) のステップに従います。
- LTCポートを経由してタイムコードを受信し、有線接続経由でタイムコードを送信します。LTC入力を使用するようにUltraSync ONEを設定する (P59) およびスタンドアロンのUltraSync ONEからタイムコードを送信する (P62) のステップに従います。

RFスレーブおよび有線デバイスに対するマスター

UltraSync ONEから、別のUltraSync ONEに有線接続されたデバイス、またはRFスレーブに、タイムコードを提供するよう設定することができます。マスターおよびタイムコードソースとして動作させるには、UltraSync ONEをマスター-TXモードで動作するよう設定する必要があります。



Note: UltraSync ONEに外部デバイスのタイムコードを受信させ、RFスレーブデバイスにタイムコードを転送させるには、LTC入力を使用するようにUltraSync ONEを設定する (P59) をご参照ください。

UltraSync ONEをマスターTXとして設定するには：

1. カメラまたはサウンドミキサー / レコーダーをUltraSync ONEに接続します。
タイムコードを使用する場合には、UltraSync ONEの LTC ポートにデバイスを接続します。 UltraSync ONE に付属している青色の DIN 1.0/2.3 to BNC ケーブルを使用します。
ゲンロックまたはワードクロックを使用する場合には、UltraSync ONEの SYNC 出力ポートにデバイスを接続します。 UltraSync ONE に付属している赤色の DIN 1.0/2.3 to BNC ケーブルを使用します。
2. UltraSync ONE に接続し、タイムコードを受け取るようにデバイスを設定してください。詳細については、デバイスの開発メーカーにお問い合わせください。
3. UltraSync ONEのスイッチがオンになっていることを確認します (UltraSync ONEのオンとオフを切り替える P11 参照)。
4. **[Select]** ボタンを押します。
5. RF周波数の国/地域を設定する (P68参照)。
このステップは、UltraSync ONE を初めて使用するときや、海外で使用するときにのみ行います。
6. **タイムコードモードをMasterTX** に設定します。
7. RFチャンネルを設定する (P72参照)
RFチャンネルは、UltraSync ONEマスターがどのRFネットワークを作成するかを定義します。スレーブデバイスは同じチャンネルを使用することで、このネットワークに参加することができます。
8. UltraSync ONEから SYNC ポート経由でゲンロック、ワードクロック、もしくはタイムコードを出力する場合、適切な **SYNCO/Pモード** を設定する必要があります (SYNC出力を設定する P81参照)。SYNC 出力を使用しない場合、このステップは無視してください。
9. **タイムコード設定オプション**を使ってUltraSync ONE マスター機のクロックを設定します (マスターのタイムコードを設定する P77参照)。
10. **FPSレートの設定オプション**を使用して 1 秒あたりのフレームレートを設定し、接続したデバイスの FPS を合わせられます (1秒当たりのフレームレートを設定する P78参照)。
11. **LocalorEXTU/B** オプションを使用して、UltraSync ONEにローカルユーザービットもしくは外部ユーザービットを設定します (ユーザービットを設定する P79参照)。ローカルユーザービットの選択時には、ユーザービットも同時に設定します。

12. ポートの出力レベルの設定は、外部デバイスと有線接続した際に反映されません。デバイスに適切な信号の電圧レベルも設定する必要があります。詳細については、以下を参照してください。:

- SYNC出力を設定する (P81参照)
- LTCLレベルを設定する (P84参照)

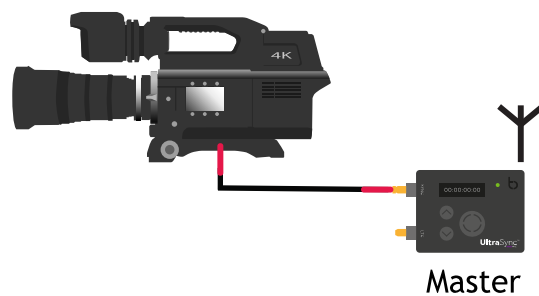
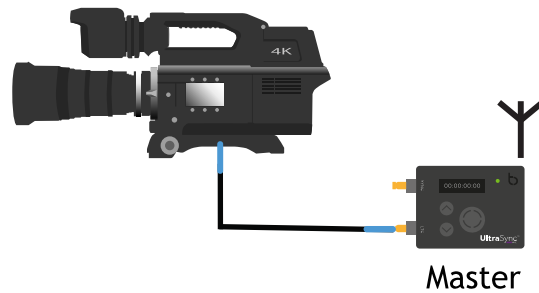
UltraSync ONE からタイムコード、FPS、そしてユーザビットデータ (さらに、設定によっては、ワードクロックまたはゲンロック) が有線接続したデバイスに送信されます。有線接続されたデバイスは、これらのデータを受信し、UltraSync ONE マスター機に同期します。

また UltraSync ONEは、範囲内にあるUltraSync ONEと同じRFチャンネルを使用するスレーブデバイスを検出します。検出されたスレーブが新しいマスターを検索している場合、UltraSync ONEは、そのスレーブに接続します。UltraSync ONEは、スレーブがUltraSync ONE (RFネットワークマスター) に同期できるように、タイムコード、FPS、ユーザビットデータをスレーブに送信します。

以下もご参照ください:

- マスターとスレーブ (P24参照)
- マスターTX (P34参照)

有線デバイスのみ (RFスレーブではない) に対するマスター



UltraSync ONEのタイムコードを、UltraSync ONEに有線接続されたデバイスにのみ送信する場合：

1. カメラまたはサウンドミキサー/レコーダーをUltraSync ONEに接続します。UltraSync ONEのタイムコードをLTCポートを経由してのみ提供する場合は、デバイスをLTCポートに接続します。UltraSync ONE に付属している青色の DIN 1.0/2.3 to BNC ケーブルを使用します。UltraSync ONEのタイムコードをSYNCポートを経由してのみ提供する場合は、デバイスをSYNCポートに接続します。UltraSync ONE に付属している赤色の DIN 1.0/2.3 to BNC ケーブルを使用します。UltraSync ONEのGenLockまたはWord Clock信号をデバイスに提供する場合は、デバイスをSYNC出力ポートに接続します。UltraSync ONE に付属している赤色の DIN 1.0/2.3 to BNC ケーブルを使用します。
2. UltraSync ONEのスイッチがオンになっていることを確認します (UltraSync ONEのオンとオフを切り替える P11参照)。
3. [Select] ボタンを押します。
4. タイムコードモードをマスターTXに設定します。

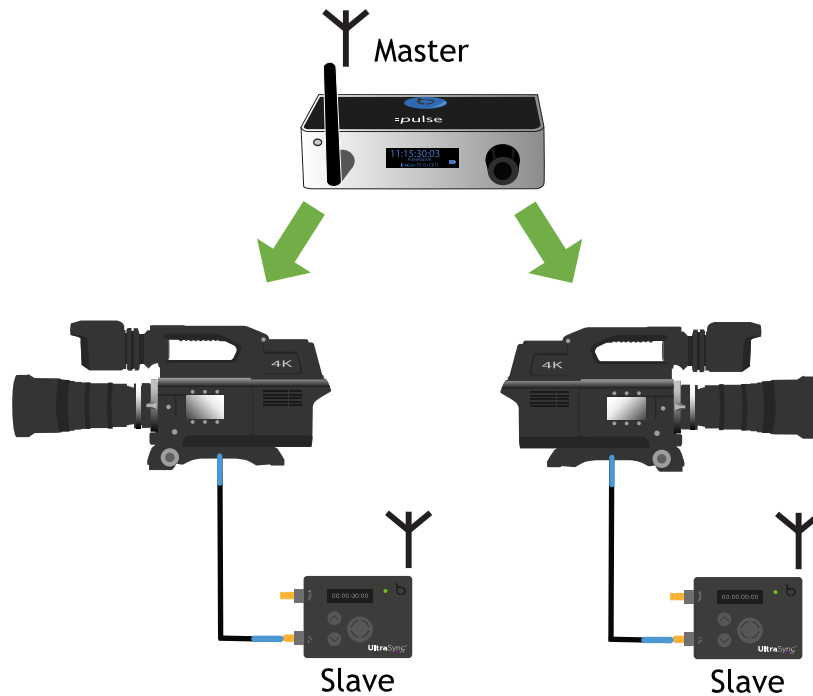
5. UltraSync ONEから SYNC ポート経由でゲンロック、ワードクロック、もしくはタイムコードを出力する場合、適切な **SYNCO/Pモード** を設定する必要があります (SYNC出力を設定する P81参照)。SYNC 出力を使用しない場合、このステップは無視してください。
6. **タイムコード設定オプション**を使ってUltraSync ONE マスター機のクロックを設定します (マスターのタイムコードを設定する P77参照)。
7. **FPSレートの設定オプション**を使用して 1 秒あたりのフレーム数のレートを設定し、接続したデバイスの FPS を合わせられます (1秒あたりのフレームレートを設定する P78参照)。
8. **LocalorEXTU/B オプション**を使用して、UltraSync ONEにローカルユーザービットもしくは外部ユーザービットを設定します (ユーザービットを設定する P79参照)。ローカルユーザービットの選択時には、ユーザービットも同時に設定します。
9. ポートの出力レベルの設定は、外部デバイスと有線接続した際に反映されます。デバイスに適切な信号の電圧レベルを設定する必要があります。詳細については、以下を参照してください。：
 - SYNC出力を設定する (P81参照)
 - LTCLレベルを設定する (P84参照)

UltraSync ONE からタイムコード、FPS、そしてユーザビットデータ (さらに、設定によっては、ワードクロックまたはゲンロック) が有線接続したデバイスに送信されます。有線接続されたデバイスは、これらのデータを受信し、UltraSync ONEマスター機に同期します。

以下もご参照ください:

- マスターとスレーブ (P24参照)
- マスターTX (P34参照)

UltraSync ONEをRFスレーブとして動作させる



UltraSync ONEをRFスレーブとして動作するよう設定するには：

1. カメラまたはサウンドミキサー / レコーダーをUltraSync ONEに接続します。

タイムコードを使用する場合には、UltraSync ONEの LTC ポートにデバイスを接続します。UltraSync ONE に付属している青色の DIN 1.0/2.3 to BNC ケーブルを使用します。

ゲンロックまたはワードクロックを使用する場合には、UltraSync ONEの SYNC 出力ポートにデバイスを接続します。UltraSync ONE に付属している赤色の DIN 1.0/2.3 to BNC ケーブルを使用します。

2. UltraSync ONEをRFネットワークのマスターデバイスの通信範囲内に配置します。同時にマスターとスレーブのクロックとLEDを確認すると、同期が行われていることが確認できます。
3. UltraSync ONEのスイッチがオンになっていることを確認します (UltraSync ONEのオンとオフを切り替える P11参照)。
4. [Select] ボタンを押します。

5. RF周波数の国/地域を設定する (P68参照)このステップは、UltraSync ONEを初めて使用するときや、海外で使用するときのみ行います。
6. タイムコードモードをRFスレーブに設定します。
7. RFチャンネルを設定する (P72参照)
8. **Local or EXT U/B** オプションを使用して、UltraSync ONEにローカルユーザービットもしくは外部ユーザービットを設定します (ユーザービットを設定する P79参照)。ローカルユーザービットの選択時には、ユーザービットも同時に設定します。
9. UltraSync ONEから SYNC ポート経由でゲンロック、ワードクロック、もしくはタイムコードを出力する場合、適切な **SYNC O/P モード** を設定する必要があります (SYNC出力を設定する P81参照)。SYNC 出力を使用しない場合、このステップは無視してください。
10. ポートの出力レベルの設定は、外部デバイスと有線接続した際に反映されます。デバイスに適切な信号の電圧レベルを設定する必要があります。詳細については、以下を参照してください。:
 - SYNC出力を設定する (P81参照)
 - LTCLレベルを設定する (P84参照)
11. ネットワーク内のマスターおよび全スレーブをオフに切り替えます。
12. マスターユニットをオンに切り替えます。
13. この手順で設定したスレーブUltraSync ONEを含むスレーブユニットをオンに切り替えます。スレーブユニットは、マスターに接続します。



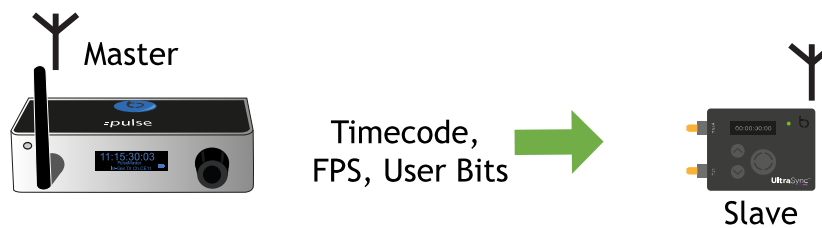
Note: 撮影の開始時には、必ず最初にマスターをオンに切り替え、次にスレーブユニットをオンに切り替えてください。最初にマスターをオンに切り替えることで、マスターとスレーブのロックをが正確に確立できます。

マスターがRFスレーブを検出し、同期する方法については、RFスレーブはマスターとどのように同期しますか? (P57) をご参照ください。

RFスレーブはマスターとどのように同期しますか？

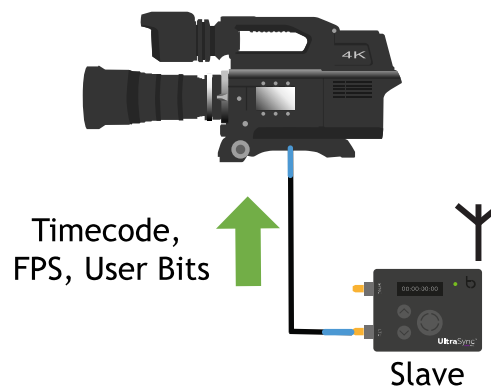
UltraSync ONEをRFスレーブとして動作するよう設定すると、自分自身をネットワーク上で「アナウンス」します。これにより、マスターはスレーブを検出できます(UltraSync ONEをRFスレーブとして動作させる P55参照)。

マスターがRFスレーブの範囲内にある場合、スレーブを検出し、タイムコード、FPS、ユーザービットデータを送信します。スレーブはマスターに同期します(ローカルまたは外部ユーザービットを選択しているかどうかに応じて、独自のユーザービット設定を保持します)。スレーブは、電源が切断されるか、モードまたはRFチャンネルが変更されるまで、マスターと同期されたままになります。



スレーブがマスターに同期している場合、タイムコードを外部デバイスに出力することができます。外部デバイスの接続方法に応じて、タイムコード、FPS、ユーザービットを、LTCまたはSYNCポートを経由して出力できます。

また UltraSync ONEは、SYNCポートを経由して、Word ClockまたはGenLock信号を提供することができます。



マスターが範囲外に移動した場合、UltraSync ONE はマスターからタイムコードを受信するまで、独自の内部タイムコード、FPS (1秒あたりのフレーム数)、ユーザービット設定を使用します。これは、「フリーラン」と呼ばれます。

UltraSync ONEの内部タイムコード、FPS (1秒あたりのフレーム数)、ユーザービットの設定については、以下をご参照ください：

- マスターのタイムコードを設定する (P77参照)
- 1秒あたりのフレームレートを設定する (P78参照)
- ユーザービットを設定する (P79参照)

LTC入力を使用するようにUltraSync ONEを設定する

'クイックセットアップ'の説明は、できる限り早く UltraSync ONEを設定できるように書かれています。マスターとスレーブの関係、RF ネットワーク、UltraSync ONEのメニュー操作について、慣れていることが前提です。順を追った詳細な説明や設定に関する追加情報が必要な場合、設定に関する章を参照してください。

UltraSync ONEをLTCポートを経由してタイムコードを受信するよう設定するには：

1. カメラまたはサウンドミキサー / レコーダーをUltraSync ONEに接続します。

タイムコードを使用する場合には、UltraSync ONEの LTC ポートにデバイスを接続します。UltraSync ONE に付属している青色の DIN 1.0/2.3 to BNC ケーブルを使用します。

ゲンロックまたはワードロックを使用する場合には、UltraSync ONEの SYNC 出力ポートにデバイスを接続します。UltraSync ONE に付属している赤色の DIN 1.0/2.3 to BNC ケーブルを使用します。

2. UltraSync ONEのスイッチがオンになっていることを確認します (UltraSync ONEのオンとオフを切り替える P11参照)。
3. **[Select]** ボタンを押します。

無線を使ってUltraSync ONEからスレーブデバイスにタイムコードを送信するには、ステップ4から続行します。

UltraSync ONEを他のデバイスに有線接続し、タイムコードを送信するには、ステップ4と5を無視して、ステップ6から続行します。

4. RF周波数の国/地域を設定する (P68参照)
5. RFチャンネルを設定する (P72参照)

UltraSync ONEは、RFネットワーク内のスレーブTimecode Systemsデバイスと同じ無線周波数を使用する必要があります。

6. タイムコードモードをEXT LTC入力に設定します。

7. LTC入力モードを選択する：

- **Non-Continuous** - UltraSync ONEと外部デバイスとの接続が切れると、UltraSync ONEは停止します。
- **Continuous** - UltraSync ONEと外部デバイスとの接続が切れると、外部デバイスと再接続されるまでUltraSync ONEはフリーランします。

8. 転送モードを設定する：

- UltraSync ONEから有線接続 (無線を非使用) でタイムコードを出力したいときには、**Tx Off (Standalone)** を選択します。**Tx Off (Standalone)** モードでは無線トランシーバーがオフになります。無線で消費する電力を節約できるので、バッテリーの持続時間を延長できます。
- UltraSync ONEのタイムコードを RF ネットワーク内 (無線経由) でスレーブ機に出力したいときには、**Tx On (Master)** を選択します。

9. **Local or EXT U/B** オプションを使用して、UltraSync ONEにローカルユーザービットもしくは外部ユーザービットを設定します (ユーザービットを設定する P79参照)。ローカルユーザービットの選択時には、ユーザービットも同時に設定します。

10. UltraSync ONEから SYNC ポート経由でゲンロック、ワードクロック、もしくはタイムコードを出力する場合、適切な **SYNC O/P モード** を設定する必要があります (SYNC出力を設定する P81参照)。SYNC 出力を使用しない場合、このステップは無視してください。

11. SYNCポートを使って、有線デバイスに出力している場合は、**SYNCレベル**を設定します (SYNC出力を設定する P81参照)。SYNC出力を使用していない場合は、このステップを無視します。

UltraSync ONE は外部デバイスから、タイムコード、FPS (1秒あたりのフレーム数)、ユーザービットを受信します。UltraSync ONEは、内部タイムコード設定およびFPS (1秒あたりのフレーム数) 設定を、外部デバイスからのデータに一致するよう変更します。また、ユーザービットデータを一致させる場合もありますが、**ローカルまたはEXT U/Bのどちらに設定するか依存します。**

UltraSync ONE が外部デバイスと同期すると、OLED 上に同期アイコンが表示されます。



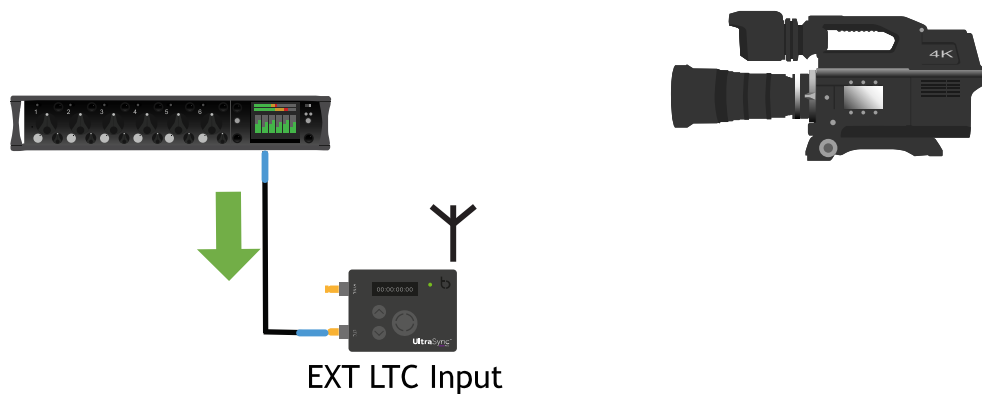
UltraSync ONEを[Tx On (Master)]モードに設定している場合、通信範囲内にある適切なRFチャンネルを使用するスレーブデバイスを検出します。スレーブに接続すると、無線を経由して、タイムコード、FPS、ユーザービットを送信します。

UltraSync ONEを[TX Off (Standalone)]転送モードに設定している場合、無線経由での送信は行われません。LTCポートを経由して、タイムコードを出力するよう設定する必要があります (スタンドアロンのUltraSync ONEからタイムコードを送信する P62参照)。

スタンドアロンのUltraSync ONEからタイムコードを送信する

UltraSync ONEをTX Off (Stand Alone)転送モードに設定している場合 (LTC入力を使用するようにUltraSync ONEを設定する P59参照)、追加で必要なステップがあります。

ここまでは、UltraSync ONEを外部タイムコードソースに同期させてきました。



次は、UltraSync ONEを切断し、別のデバイスにタイムコードを送信するときの設定です。



次の手順で行います：

1. UltraSync ONEをタイムコードを提供するデバイスから切断します。
UltraSync ONE はフリーランを行い、外部デバイスから受信したタイムコードを使用するようになります。
2. UltraSync ONEを**Master TX**モードに設定します。
3. UltraSync ONEを異なる外部デバイスに接続します。
以下を経由して接続することができます：
 - LTCポート：UltraSync ONE に付属している青色の DIN 1.0/2.3 to BNC ケーブルを使用します。
 - SYNCポート：UltraSync ONE に付属している赤色の DIN 1.0/2.3 to BNC ケーブルを使用します。
4. **SYNC**ポートを経由して接続している場合は、**[Set Sync O/P Mode]** オプションを使って、**LTC**をUltraSync ONE出力するよう設定します。
LTCポートを経由して接続している場合、このステップを無視してください。
5. UltraSync ONEを接続し、デバイスがタイムコードを受信できるように設定します。詳細については、デバイスの開発メーカーにお問い合わせください。

UltraSync ONEを信号にジャミングさせる

UltraSync ONEを外部デバイスに接続し、外部デバイスのタイムコードに「ジャミング」させることができます。ジャミングした後に、UltraSync ONEを切断し、他のデバイスにタイムコードを送信するために使用できます。



Note: ジャミングの概念については、フリーランおよびジャミング (P40) をご参照ください。

UltraSync ONEを外部タイムコード信号にジャミングさせる手順：

1. 外部デバイスをUltraSync ONEのLTCポートに接続します。UltraSync ONEに付属している青色の DIN 1.0/2.3 to BNC ケーブルを使用します。
2. UltraSync ONEのスイッチがオンになっていることを確認します (UltraSync ONEのオンとオフを切り替える P11参照)。
3. **[Select]** ボタンを押します。
4. **タイムコードモードをFree Run/ Jam-Ext** に設定します (タイムコードモードを設定する P69参照)。
5. **[Select]** ボタンを押します。
6. **[Up]** ボタンと**[Down]** ボタンを使用してスクロールし、**[TC Generator]** オプションを選択します。
7. **[Select]** ボタンを押します。
8. **[Up]** および**[Down]** ボタンを使って **[Jam EXT T/C]** オプションにスクロールします。

UltraSync ONEは信号をジャミングすることにより、タイムコードソースと同期しようとしています。信号に対するジャミングを試みると、メイン画面に **Jamming T/C**が表示されます。

UltraSync ONEが信号に同期できないとき、**Jam Failed No Signal (信号のジャミングに失敗しました)**とメッセージが表示されます。これは通常、タイムコードソースが適切に接続されていない、または、タイムコードを出力していない旨を示します。接続を確認し、タイムコードソースデバイスが、タイムコードを出力するよう設定されていることを確認します。

ジャミングに成功すると UltraSync ONEは、外部タイムコードソースに同期します。その後は、外部タイムコードソースを切断することができます。

UltraSync ONEを外部タイムコードソースに同期された状態に維持するには、定期的な間隔 (通常、1日あたり1~2回) で、再接続および再ジャミングを行う必要があります。

Chapter 4

構成を設定する

この章では、様々な構成タスクを行う方法を紹介します。いくつかのタスクはUltraSync ONEを使用するために必ず行う必要がありますが、その他のタスクは任意で行ってください。

RF周波数の国/地域を設定する	68
タイムコードモードを設定する	69
RFチャンネルを設定する	72
マスターのタイムコードを設定する	77
1秒当たりのフレームレートを設定する	78
ユーザービットを設定する	79
SYNC出力を設定する	81
LTCLレベルを設定する	84
ステータスインジケータLEDの輝度を変更する	85
画面の輝度を変更する	86
画面調光タイマーを変更する	87
表示を回転させる	88
ボタンロック	89

Configuration

RF周波数の国/地域を設定する

UltraSync ONEは、無線 (RF) 経由で他のデバイスと通信します。UltraSync ONEを使用する前に、地域に即した正しい無線周波数を使用するように設定する必要があります。これは、国により無線周波数の使用に対する規制が異なるためです。



Note: RFの国/地域の設定は、北米およびカナダで販売されるユニットでは行えません。米国またはカナダでUltraSync ONEを購入され、別の国で使用する場合は、Timecode Systemsにお問い合わせください。国/地域を設定するための**無料アップデートアプリケーション**を提供します。

RFの国/地域を設定するには：

1. UltraSync ONEのスイッチがオンになっていることを確認します (UltraSync ONEのオンとオフを切り替える P11参照)。
2. **[Select]** ボタンを押します。
3. **[Up]**ボタンと **[Down]**ボタンを使用して、**[System Settings]**オプションにスクロールします。
4. **[Select]** ボタンを押します。
5. **[Up]**および**[Down]**ボタンを使って、**[Set RF Country/ Area]**オプションにスクロールします。
6. **[Select]** ボタンを押します。
7. **[Up]**および**[Down]**ボタンを使って、適切な地域を選択します：
 - **Europe / UK** (ヨーロッパ・英国)
 - **Japan / China** (日本・中国)
 - **US/ CA/ AU/ NZ** (米国・カナダ・オーストラリア・ニュージーランド)
8. **[Select]** ボタンを押して確定します。UltraSync ONEは、選択した地域に即した無線周波数を使って通信を行います。



Tip: メインステータス画面を見て、UltraSync ONEが、どの国/地域で使うように設定されているかを確認することができます(メイン画面 P92参照)。国/地域は、右下隅のチャンネルの隣に表示されます(欧州の場合は**CE**、日本/アジアの場合は**JP**、米国、カナダ、オーストラリア、ニュージーランドの場合は**FC**)。

タイムコードモードを設定する

UltraSync ONEは、汎用同期デバイスです。多くのモードで動作させることができます。以下の章で、様々なモードを確認できます：

- マスターTX (P34参照)
- RFスレーブ (P36参照)
- EXT LTC入力 (P37参照)
- フリーランおよびジャミング (P40参照)



Note: これらのモードは、UltraSync ONEと他のデバイスとの同期方法を定義します。したがって、どのように動作するかを理解することは重要です。

UltraSync ONEを任意のモードで動作するよう設定する場合、**タイムコードモード**設定を使用する必要があります。

タイムコードモード設定にアクセスするには：

1. UltraSync ONEのスイッチがオンになっていることを確認します (UltraSync ONEのオンとオフを切り替える P11参照)。
2. **[Select]** ボタンを押します。
3. **[Up]**および**[Down]**ボタンを使って、**[Timecode Mode]**オプションにスクロールします。
4. **[Select]** ボタンを押します。
5. **[Up]**および**[Down]**ボタンを使って、適切なモードにスクロールします：

タイムコードモード	動作
Master TX	<p>UltraSync ONEは、RFネットワークのマスターです。そのタイムコードは、無線経由でスレーブに送信されます。</p> <p>また、LTCおよびSYNCポートを経由して、接続したデバイスにタイムコードデータを送信することができます。</p>

タイムコードモード	動作
RF Slave	UltraSync ONEは、マスター Timecode Systems製品からタイムコードデータを受信します*。LTC およびSYNCポートを経由して、接続したデバイスにこのタイムコードデータを送信することができます。
EXT LTC Input	UltraSync ONEは、LTCポートを経由して、接続されたデバイスからタイムコードデータを受信します。
Free Run/Jam-Ext	UltraSync ONEは、LTCポートを経由して接続されたデバイスからの信号に対するジャミングによりタイムコードが設定されています。ジャミングすると、UltraSync ONEが切断されても、継続してタイムコードを使用できます。各デバイス間の同期を維持するには、定期的に再ジャミングする必要があります。

* RFスレーブモードのとき、UltraSync ONEはフリーランを行い、独自のクロック設定を使用しますが、同じネットワーク内のマスターを検索し続けます。マスターを検出すると、マスターのタイムコードに設定されます。

6. **[Select]** ボタンを押します。
7. **RFチャンネル**を選択するようにプロンプトが表示された場合は、**[Up]**および**[Down]**ボタンを使って、UltraSync ONEが無線通信に使用するRFチャンネルを設定します。マスターデバイスは、同じRFチャンネルを使用するスレーブデバイスとのみ通信します。
8. **[Non-Continuous]**または**[Continuous]**を選択するようプロンプトが表示された場合は、以下を選択します：
 - **Non-Continuous** - UltraSync ONEと外部デバイスとの接続が切れると、UltraSync ONEは停止します。

- **Continuous** - UltraSync ONEと外部デバイスとの接続が切れると、外部デバイスと再接続されるまでUltraSync ONEはフリーランします。
9. [TX On]または[TX Off]を選択するようプロンプトが表示された場合：
- UltraSync ONEのタイムコードを RF ネットワーク内 (無線経由) でスレーブ機に出力したいときには、**Tx On (Master)** を選択します。
 - UltraSync ONEから有線接続 (無線を非使用) でタイムコードを出力したいときには、**Tx Off (Standalone)** を選択します。**Tx Off (Standalone)** モードでは無線トランシーバーがオフになります。無線で消費する電力を節約できるので、バッテリーの持続時間を延長できます。
10. [Select] ボタンを押します。

RFチャンネルを設定する

UltraSync ONEをRFネットワークで使用する場合、ネットワーク内の他のTimecode Systemsデバイスに一致するようRFチャンネルを設定する必要があります (RFネットワークとは、同じRFチャンネルを使用して無線通信を行う、全てのTimecode Systems製品のグループです)。

以下の場合、RFチャンネルを設定する必要があります：

- RFネットワークに参加するため、初めてUltraSync ONEを設定する場合
- UltraSync ONEを別のRFネットワークで使用する場合
- RFネットワークのマスターデバイスを変更する場合。同じチャンネルを使用する場合でも、異なるマスターデバイスを導入する場合は、UltraSync ONEは、そのRFチャンネルをリセットする必要があります。



Note: UltraSync ONEは、1つのRFネットワークにのみ参加することができます。ネットワーク間でUltraSync ONEを移動する場合は、UltraSync ONEのRFチャンネルを変更し、ユニットを再起動します。

RFネットワークに参加するため、UltraSync ONEを設定するには：

1. UltraSync ONEのスイッチがオンになっていることを確認します (UltraSync ONEのオンとオフを切り替える P11参照)。
2. **[Select]** ボタンを押します。
3. **[Up]**および**[Down]**ボタンを使って、**[Set RF Channel No.]**オプションにスクロールします。
4. **[Select]** ボタンを押します。
5. **[Up]**および**[Down]**ボタンを使って、UltraSync ONEをRFネットワーク内の他のデバイスと同じチャンネル番号に設定します。
6. **[Select]** ボタンを押して確定します。

メイン画面を見て、UltraSync ONEがどのチャンネルを使用するよう設定されているかを確認します。チャンネルは、右下隅のバッテリーインジケータの隣に表示されます。



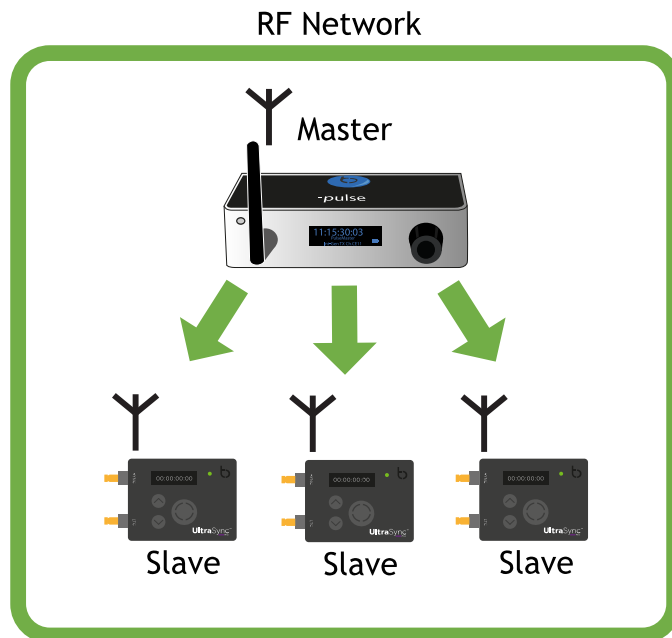
上の図において、Ch.CE03は、UltraSync ONEが、欧州地域 (CE) で動作し、RFチャンネル03を使用するよう設定されていることを示します。

例1 : RFネットワークに参加する

3つのUltraSync ONEユニットと1つの:pulseユニットがあると仮定します。:pulseユニットが、「マスター」として設定され、RFチャンネル4を使用します。

UltraSync ONEユニットを:pulseユニットに同期させるには、3つのUltraSync ONEユニットすべてが、RFチャンネル4を使用するように設定する必要があります。また、正しい国/地域を設定し、RFスレーブモードで動作するように設定する必要があります。

これらを正しく設定することにより、マスターユニットの範囲内にスレーブUltraSync ONEがある限り、マスター:pulseはスレーブUltraSync ONEに接続しタイムコードを提供します。

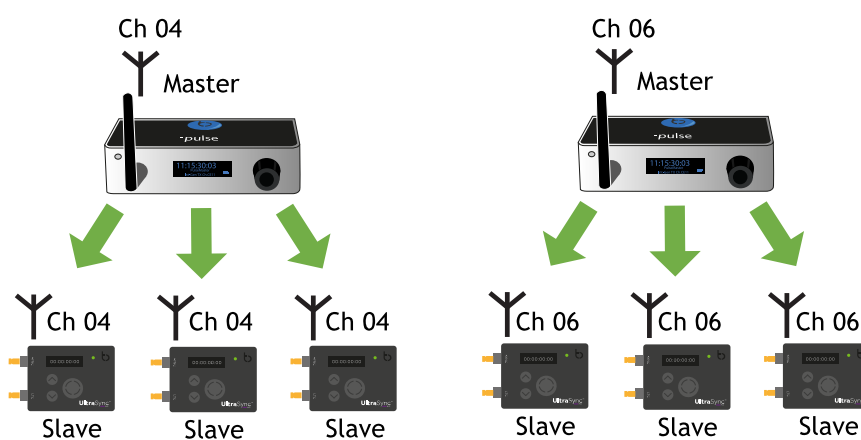


例2：範囲内に複数のRFネットワーク

6つのUltraSync ONEユニットと2つの:pulseユニットがあり、これらを異なるネットワークに配置する必要があると仮定します。この例では、各ネットワークに3つのUltraSync ONEが必要であり、必要に応じて、それらを異なる方法で割り当てることができるかと仮定します。

1番目のネットワークでは、:pulseと3つのUltraSync ONEに正しい国/地域を設定し、RFチャンネル04を使用するように設定します。:pulseをマスターとして動作するように設定し、UltraSync ONEをRFスレーブモードで動作するように設定します。:pulseと3つのUltraSync ONEは、すべてRFチャンネル04BLINKネットワークに存在します。

2番目のネットワークでは、:pulseと3つのUltraSync ONEに正しい国/地域を設定し、RFチャンネル06を使用するように設定します。:pulseをマスターとして動作するように設定し、UltraSync ONEをRFスレーブモードで動作するように設定します。:pulseと3つのUltraSync ONEは、すべてRFチャンネル06BLINKネットワークに存在します。

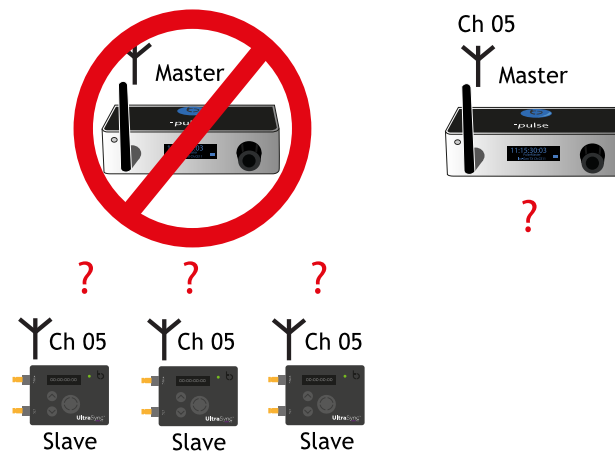


2つのネットワークは完全に分離され、一方のネットワーク内のデバイスが、もう一方のネットワーク内のデバイスと通信することはありません。

例3 : RFネットワーク内のマスターを置き換える

RFネットワーク内のマスターデバイスを変更する必要がある場合、再度、RFチャンネルの再設定が必要となる場合があります。これは、スレーブがマスターとチャンネルの詳細をメモリに格納しており、異なるマスターを使用する場合、メモリを消去する必要があるためです。

マスターとして:pulseが、スレーブとして3つのUltraSync ONEがあると仮定します。これらは、すべてRFチャンネル05を使用するよう設定されています。全てのUltraSync ONEは、正しくマスターに同期し、撮影を開始します。ここでアクシデントにより、:pulseが故障したとします。利用可能な別の:pulseユニットがあり、故障したユニットと交換します。新しい:pulseをRFチャンネル05を使用するよう設定しても、スレーブUltraSync ONEは、これに接続できません。これは、スレーブが損傷した:pulseに「ロックされている」ためです。



交換した:pulseに正しく接続させるには、UltraSync ONEスレーブをオフに切り替えた後、再度、オンに切り替え、メモリをクリアします。あるいは、スレーブをRFチャンネル05を使用するよう再設定を試みます。

国/地域に関する詳細については、RF周波数の国/地域を設定する (P68) をご参照ください。

RFスレーブモードの詳細については、タイムコードモードを設定する (P69) をご参照ください。

マスターのタイムコードを設定する



Note: 本章の内容は、UltraSync ONEをマスターTXモードで動作するよう設定している場合にのみ対応します (クイック設定：マスターTXとしてのUltraSync ONE (1ページ)を参照)。

UltraSync ONEが、マスターTXモードで動作するよう設定されている場合、RFネットワークでマスターとして動作します。その際、マスタータイムコードを設定する必要があります。そのタイムコードはネットワーク内のスレーブに送信され、スレーブはマスターに同期することができます。

UltraSync ONEのタイムコードを設定するには：

1. UltraSync ONEのスイッチがオンになっていることを確認します (UltraSync ONEのオンとオフを切り替える P11参照)。
2. **[Select]** ボタンを押します。
3. **[Up]**ボタンと**[Down]**ボタンを使用してスクロールし、**[TC Generator]**オプションを選択します。
4. **[Select]** ボタンを押します。
5. UltraSync ONEの時刻を設定するためには、**[Up]**ボタン、**[Down]**ボタン、**[Select]**ボタンを使用します。**[Up]**ボタンまたは**[Down]**ボタンを押し、数値を変更します。**[Select]**ボタンを押すと数値が確定し、次の文字(左から右)に移動します。最後の値を設定し **[Select]**ボタンを押すと、入力した時刻で確定されます。

また、1秒当たりのフレームレートを設定する (P78参照) 必要があります。

1秒当たりのフレームレートを設定する



Note: この章の内容は、UltraSync ONEが、マスターTXモードで動作している場合、または、**Free Run/Jam-Ext**モードでフリーランしている場合にのみ適用されます。UltraSync ONEが、**Ext LTC**入力または**RFスレーブ**モードで動作している場合、FPSデータをマスターまたは外部タイムコードソースから受信します。

UltraSync ONEのFPS (1秒あたりのフレーム数) は、撮影に使用するカメラおよびサウンドミキサー/レコーダーのFPSに一致させる必要があります。これは、同じFPS設定が使用される場合のみ、記録される各フレームにタイムコードが正確に適用されるためです。

FPSを設定するには：

1. UltraSync ONEのスイッチがオンになっていることを確認します (UltraSync ONEのオンとオフを切り替える P11参照)。
2. **[Select]** ボタンを押します。
3. **[Up]**ボタンと**[Down]**ボタンを使用してスクロールし、**[TC Generator]**オプションを選択します。
4. **[Select]** ボタンを押します。
5. **[Up]**および**[Down]**ボタンを使って、**[Set FPS Rate]**オプションにスクロールします。
6. **[Select]** ボタンを押します。
7. **[Up]**および**[Down]**ボタンを使って、UltraSync ONEのFPSを適切な値に設定します。
8. **[Select]** ボタンを押して確定します。

また、マスターのタイムコードを設定する (P77参照) 必要があります。



Note: UltraSync ONEが、マスターTXモードで動作している場合、同じFPSを使用するよう、RFネットワーク内のスレーブユニットにFPSを送信します。

ユーザービットを設定する

収録データを編集しやすくするために、タイムコードデータにメタデータを追加することができます。例えば、日付とシーン番号を追加するのにユーザービットは一般的に使用されます。

UltraSync ONEのタイムコードモードおよびユーザービット設定は、どのメタデータを使用するかに影響を与えます：

- UltraSync ONEが、**マスターTX**である場合、ネットワーク内のスレーブにユーザービットデータを送信します。ユーザービットを設定していない場合、標準状態のユーザービットである4つの00を送信します。
- UltraSync ONEが、**RFスレーブ**である場合、UltraSync ONEが、マスターから受信するユーザービットを使用するか、独自のユーザービット設定を使用するかを選択できます。
- UltraSync ONEが、**EXT LTC入力**または**Free Run/Jam Ext**モードで動作している場合、外部ソースから受信するユーザービットを使用する、または、独自のユーザービット設定を使用するかを選択することができます。

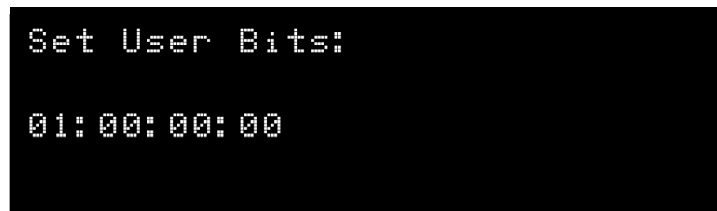


Note: ユーザービットは、8桁の16進数文字で構成されます。サポートされる文字は、0からFの範囲です。

UltraSync ONEのタイムコードにメタデータを追加するには、**[Set User Bits]**を使用する必要があります：

1. UltraSync ONEのスイッチがオンになっていることを確認します (UltraSync ONEのオンとオフを切り替える P11参照)。
2. **[Select]** ボタンを押します。
UltraSync ONEが、**マスターTX**モードの場合は、ステップ3から6を無視して、ステップ7から続行します。
UltraSync ONEが、**Ext LTC入力**、**Free Run/Jam Ext**、**RFスレーブ**モードの場合は、ステップ3から続行します。
3. **[Up]**ボタンと**[Down]**ボタンを使用して、**[Local or EXT U/B]**オプションにスクロールします。
4. **[Select]** ボタンを押します。

5. **[Up]**および**[Down]**ボタンを使って、以下から選択します：
 - **[Use Locally Set U/B]** - UltraSync ONEは、独自のユーザービット設定を使用します。マスター/外部ソースからのユーザービット設定を無視します。
 - **[Use EXT Source U/B]** - UltraSync ONEは、マスターまたは外部ソースから受信するユーザービット設定を使用します。独自のユーザービット設定は使用しません。
6. **[Select]** ボタンを押して確定します。
7. **[Up]**ボタンと**[Down]**ボタンを使用してスクロールし、**[TC Generator]**オプションを選択します。
8. **[Select]** ボタンを押します。
9. **[Up]**および**[Down]**ボタンを使用して、**[Set User Bits]**オプションにスクロールします。
10. **[Select]** ボタンを押します。
11. メタデータを設定します。左から順番に文字のペアを変更することができます。**[Up]**および**[Down]**ボタンを使って、文字を変更し、**[Select]**を押して確定します。次の文字のペアが自動的に選択され、同じ方法で変更することができます。



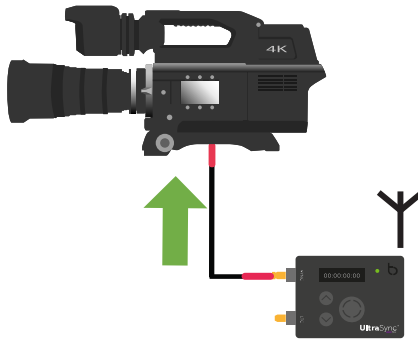
```
Set User Bits:  
  
01:00:00:00
```

12. **[Select]** ボタンを押します。

SYNC出力を設定する

UltraSync ONEには、Word Clock、GenLock、タイムコード (LTC) を出力できる SYNC出力ポートがあります。次の場合、SYNCポートを使用する必要があります：

- 精度を向上させるため、GenLockをカメラに出力する場合
- 精度を向上させるため、Word Clockをサウンドミキサー/レコーダーに出力する場合
- LTCポートを入力ポートとして使用し、有線接続経由でタイムコードを出力する必要がある場合



Note: 任意のUltraSync ONEモードにおいて、SYNC出力を使用することができます。

SYNCポートを使用するには、**Sync O/Pモード**を設定する必要があります。また、**Sync O/Pレベル**の設定が必要となる場合があります。

1. 外部デバイス (カメラ、サウンドミキサー/レコーダー) が、外部ソースから GenLock、Word Clock、タイムコードを受信するように設定します。詳細については、メーカーの情報を参照してください。
2. 適切なケーブルを使用して、カメラまたはサウンドミキサー/レコーダーを SYNCポートに接続します (一部のデバイスの場合、UltraSync ONEに付属の赤色DIN 1.0/2.3 - BNCケーブルを使用できます)。
3. UltraSync ONEのスイッチがオンになっていることを確認します (UltraSync ONEのオンとオフを切り替える P11参照)。
4. **[Select]** ボタンを押します。
5. **[Up]** ボタンと**[Down]** ボタンを使用して、**[Sync Generator]** オプションにスクロールします。

6. [Select] ボタンを押します。
7. [Up]および[Down]ボタンを使って、[Set Sync O/P Mode]オプションにスクロールします。
8. [Select] ボタンを押します。
9. [Up]および[Down]ボタンを使って、デバイスに適切な出力信号を選択します。サポートされるGenLock、Word Clock信号のタイプ、そのレベルの詳細については、ご利用のデバイスのメーカーの情報を参照してください。



Note: ほとんどのカメラは、1080p GenLockを使用しますが、Sony製のカメラは、1080p PSFを使用します。



Note: [Sync O/P Mode]を[Off]に設定することにより、SYNC出力を無効にすることができます。

11. [Select] ボタンを押して確定します。
12. [Up]ボタンと[Down]ボタンを使用して、[Sync Generator]オプションにスクロールします。
13. [Select] ボタンを押します。
14. [Up]および[Down]ボタンを使って、[Set Sync O/P Level]オプションにスクロールします。
15. [Select] ボタンを押します。
16. [Up]および[Down]ボタンを使って、ご利用のデバイスに適切なレベルにスクロールします。ご利用のデバイスとUltraSync ONEの間に接続がない場合、最初に[Std. O/P Level]を使用し、出力が足りない場合には、レベルを[High]に変更することをお勧めします。
 - Std.O/P Level (標準O/Pレベル)
 - High O/P Level (高O/Pレベル)



Note: SYNCポートを使って、GenLockを使用している場合、[Std.O/P Level]は、170mVpp信号です。[High O/P Level]は、2.7Vpp信号です。

17. [Select] ボタンを押して確定します。

UltraSync ONEは、**SYNC**ポートを経由して、GenLock、Word Clock、タイムコード信号をデバイスに出力します。

LTCLレベルを設定する

UltraSync ONEをLTCポートを経由してLTC (タイムコード) を出力するよう設定する場合、LTCLレベルを設定する必要があります。これは、LTC信号の電圧で、LTC信号を受信する外部デバイスがサポートする電圧に一致させる必要があります。

外部デバイスが必要とする電圧を確認するには、メーカーの情報を参照してください。



Note: SYNCポートを経由して、LTCを出力するためにUltraSync ONEを使用している場合、SYNCポートのレベルを設定する必要があります (SYNC出力を設定する P81参照)。

LTCLレベルを設定するには :

1. UltraSync ONEのスイッチがオンになっていることを確認します (UltraSync ONEのオンとオフを切り替える P11参照)。
2. **[Select]** ボタンを押します。
3. **[Up]**ボタンと **[Down]**ボタンを使用して、**[System Settings]**オプションにスクロールします。
4. **[Select]** ボタンを押します。
5. **[Up]**および**[Down]**ボタンを使用して、**[LTC Output Level]**オプションにスクロールします。
6. **[Select]** ボタンを押します。
7. 外部デバイスが必要とするLTC入力電圧と一致するLTC出力を選択します :
 - **Std Level** - 3Vpp 信号
 - **MIC Level** - 70mVpp 信号
 - **Low Level** - 600mVpp 信号
8. **[Select]** ボタンを押して確定します。

ステータスインジケータLEDの輝度を変更する

要件に応じて、UltraSync ONEのステータスインジケータLEDの明暗を設定することができます。

LED輝度の変更手順:

1. UltraSync ONEのスイッチがオンになっていることを確認します (UltraSync ONEのオンとオフを切り替える P11参照)。
2. **[Select]** ボタンを押します。
3. **[Up]**ボタンと **[Down]**ボタンを使用して、**[System Settings]**オプションにスクロールします。
4. **[Select]** ボタンを押します。
5. **[Up]**および**[Down]**ボタンを使って、**[Set LED Brightness]**オプションにスクロールします。
6. **[Select]** ボタンを押します。
7. **[Up]**および**[Down]**ボタンを使って、値を変更します。輝度の範囲は、1~5です。1が最も暗く、5が最も明るくなります。
8. **[Select]** ボタンを押して確定します。

画面の輝度を変更する

特定の条件において、UltraSync ONEの画面輝度の変更が必要になる場合があります。例えば、明るい環境で撮影を行うとき、見やすくするために画面を明るくしたくなる場合があります。

画面の輝度の変更手順：

1. UltraSync ONEのスイッチがオンになっていることを確認します (UltraSync ONEのオンとオフを切り替える P11参照)。
2. **[Select]** ボタンを押します。
3. **[Up]**および**[Down]**ボタンを使って、**[Display Settings]**オプションにスクロールします。
4. **[Select]** ボタンを押します。
5. **[Up]**および**[Down]**ボタンを使って、**[Set Brightness]**オプションにスクロールします。
6. **[Select]** ボタンを押します。
7. **[Up]**および**[Down]**ボタンを使って、輝度の値を設定します (1は最も暗く、5は最も明るくなります)。
8. **[Select]** ボタンを押して確定します。

画面調光タイマーを変更する

標準の状態では、UltraSync ONEの画面は、常に設定した輝度レベルで点灯します。これにより、表示内容を容易に取り出すことができますが、より多くのバッテリーを消費します。バッテリー消費を減らしたい場合、または、短時間点灯させた後に画面が暗くなるようにしたい場合は、**[Display Settings]**を変更する必要があります。

1. UltraSync ONEのスイッチがオンになっていることを確認します (UltraSync ONEのオンとオフを切り替える P11参照)。
2. **[Select]** ボタンを押します。
3. **[Up]**ボタンと**[Down]**ボタンを使用して、**[Display Settings]**にスクロールします。
4. **[Select]** ボタンを押します。
5. 画面を明るく表示する時間が好みの時間になるように、**[Up]**および**[Down]**ボタンを使ってスクロールします：
 - **[Always]** : 画面を常に明るく表示します。
 - **[Short timed on]** : 最後にボタンを押してから、約10秒間画面を明るく表示します。
 - **[Long timed on]** : 最後に**[Up]**、**[Down]**、または、**[Select]**ボタンを押してから、約20秒間画面を明るく表示します。画面の明かりが落ちた後、任意のボタンを押さない限り、画面は暗いままで。

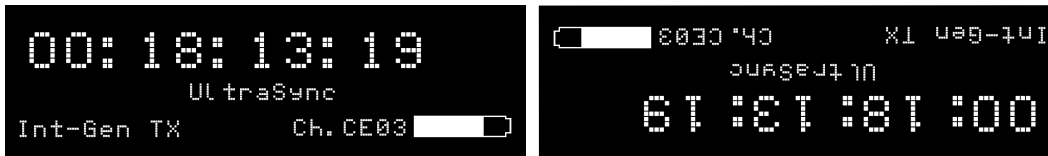


Note: **[Up]**、**[Down]**、または、**[Select]**ボタンを押すと、調光タイマーはリセットされます。

6. **[Select]** ボタンを押して確定します。

表示を回転させる

状況によっては、UltraSync ONEを上下逆にして吊り下げのように取り付けることが必要となる場合があります。UltraSync ONEの画面は180度回転させて表示するように設定できます。



表示の反転手順：

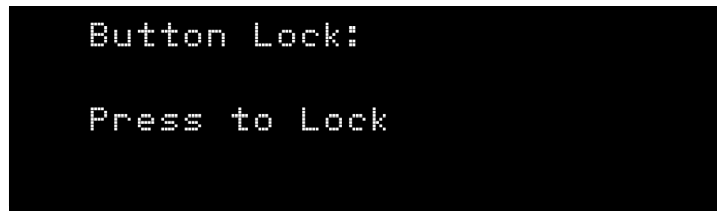
1. UltraSync ONEのスイッチがオンになっていることを確認します (UltraSync ONEのオンとオフを切り替える P11参照)。
2. **[Select]** ボタンを押します。
3. **[Up]**ボタンと**[Down]**ボタンを使用して、**[Display Settings]**にスクロールします。
4. **[Select]** ボタンを押します。
5. **[Up]**および**[Down]**ボタンを使って、**[Flip Display]**オプションにスクロールします。
6. **[Select]** ボタンを押して確定します。
7. 2～6のステップを繰り返すと、画面表示を前の状態に戻せます。

ボタンロック

UltraSync ONEの制御ボタンが誤って押されてしまうと、設定に影響を与えることがあります。**ボタンロック**により UltraSync ONEの誤動作を防止できます。

ボタンロックを有効にすると、ロックを無効にしない限り、メニューに入ることができません。

1. UltraSync ONEのスイッチがオンになっていることを確認します (UltraSync ONEのオンとオフを切り替える P11参照)。
2. **[Up]**および**[Down]**ボタンを使って、画面をスクロールし、上部に**[Button Lock]**を表示させます。



ボタンロック画面は、2つのメッセージのいずれかを表示します:

- **[Press to Lock]** - このメッセージは、現在、ボタンロックが無効である場合に表示されます。**[Select]**ボタンを押して、ボタンロックを有効にすると、ボタンロックを無効にするまで、UltraSync ONE のメニューオプションへのアクセスは行えません。
 - **[Press to Un-Lock]** - このメッセージは、現在、ボタンロックが有効である場合に表示されます。**[Select]**ボタンを押して、ボタンロックを無効にします。**[Select]**ボタンを押すことにより、再度、メニューにアクセスすることができます。
3. **[Select]** ボタンを押して確定します。

Chapter 5

ステータス情報

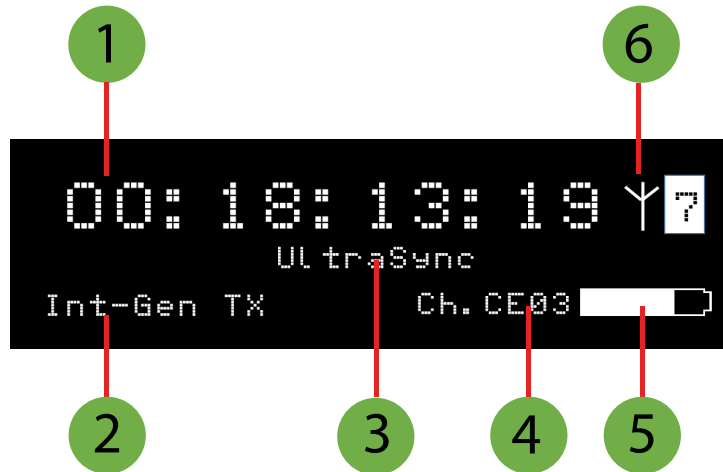
UltraSync ONEは、ユニットの現在のステータス情報を表示する機能を備えています。表示内容については、以下をご参照ください：

メイン画面	92
バージョン番号とシリアル番号	93
電源およびバッテリーのステータス	94
同期ステータス	95
SYNC出カステータス	96
LTC出カステータス	97

Status

メイン画面

UltraSync ONEが他のステータス表示を行ったり、または、メニューオプションにアクセスしたりしていないとき、メイン画面が表示されます。



キー	説明
1	UltraSync ONEにより使用されているタイムコード。
2	UltraSync ONEのモード (ネットワークとモード P23参照)。
3	デバイス名。BLINK Hubアプリケーションを使って、名前を変更することができます。
4	国/地域およびUltraSync ONEにより使用されているRFチャンネル。Ch.は、チャンネルを意味します。Ch.の後の最初の2文字は国/地域を示します (欧州はCE、アジアはJP、米国、カナダ、オーストラリア、ニュージーランドはFCです)。2桁の数字は、RFチャンネルを示します。
5	現在使用されている設定に基づき、バッテリー残量の目安を表示するバッテリーアイコン。
6	信号強度および通信インジケータ。スレーブとマスターが通信しているときは、右上隅にあるアンテナの形のアイコンが点滅します。アンテナアイコンの右にある数字は信号強度です (強度は0~7の数字で示され、7が最大強度)。

バージョン番号とシリアル番号

Timecode Systems技術サポートに問い合わせる場合、UltraSync ONEのシリアル番号を求められる場合があります。また、UltraSync ONEで動作しているファームウェアのバージョンを問われる場合があります。この情報を探すには以下の操作を行ってください：

1. メイン画面を表示します。
2. [Up]および[Down]ボタンを使って、画面をスクロールし、上部にUltraSync ONEを表示させます。

```
UltraSync ONE  
  
USnc1 V1.03  
SerNo. 101716a000006
```

ステータス	説明
USnc1	UltraSync ONEにインストールされているファームウェアのバージョン番号
SerNo.	UltraSync ONEユニットのシリアル番号



Tip: ファームウェアバージョンの完全な情報は、UltraSync ONEをアップデートアプリが動作するコンピューターに接続して確認します。

電源およびバッテリーのステータス

バッテリー残量をメイン画面または専用電源およびバッテリー画面で確認することができます。また、電源およびバッテリー画面は、メイン充電器などの外部電源に関する情報を表示します。

1. メイン画面 (P92参照) を表示します。
2. [Up]および[Down]ボタンを使って、画面をスクロールし、上部に [Power]を表示させます。



ステータス	説明
Power	外部電源のステータス。EXT-OFFは外部電源が存在しないことを、EXT-OKは外部電源が存在することを意味します。
Battery	バッテリー残量の目安を表示する5つのバーからなるアイコンです (バーが1つだと充電量が少ないこと、バーが5つだとフル充電であることを示します)。これは、UltraSync ONEの現在の設定に基づいており、使用する必要のない機能をオフに切り替えると、増える場合があります。

同期ステータス

RFネットワークにデバイスを追加または変更したとき、それらが正しく同期していることを確認する必要があります。同期ステータス画面を見ると簡単に確認できます。

```
TCG 00:00:31:15
USER 00.00.00.00

Master: SUPP Pulse
```

1. メイン画面を表示します。
2. [Up]および[Down]ボタンを使って、画面をスクロールし、上部に TCR またはTCGを表示させます。

ステータス	説明
TCRまたはTCG	<p>UltraSync ONEがスレーブの場合、TCR (タイムコード受信中) が表示されます。</p> <p>UltraSync ONEがマスターの場合、TCG (タイムコード生成済) が表示されます。</p> <p>TCR/TCGの隣は、UltraSync ONEが使用しているタイムコードです。</p>
USER	<p>UltraSync ONEが使用しているユーザービットを表示します (ユーザービットを設定する P79参照)。</p>
Master	<p>UltraSync ONEが同期しているマスターデバイスの名称を表示します (UltraSync ONEがRFスレーブモードである場合のみ利用可)。</p> <p>UltraSync ONEが、マスターモードである場合、ステータスには、マスターに接続されたスレーブの数が表示されます。</p>

SYNC出力ステータス

SYNC O/Pステータス画面を使って、UltraSync ONEが、SYNC 出力ポートに対して、どのモードおよびレベルを使用しているかを確認することができます。

1. メイン画面 (P92参照) を表示します。
2. [Up]および[Down]ボタンを使って、画面をスクロールさせ、上部に [SYN O/P]を表示させます。

```
SYNC O/P:  
  
Mode: 192K WC  
Level: Normal
```

ステータス	説明
モード	UltraSync ONEが、SYNCポートを経由して、出力するように設定されている信号のタイプ (SYNC出力を設定する P81参照)。
レベル	SYNC出力の電圧レベル (SYNC出力を設定する P81参照)。

LTC出力ステータス

LTC O/Pステータス画面を使って、UltraSync ONEが、LTC出力ポートに対して、どのFPS (1秒あたりのフレーム数) とレベルを使っているかを確認することができます。

1. メイン画面 (P92参照) を表示します。
2. [Up]および[Down]ボタンを使って、画面をスクロールし、上部に [LTC O/P]を表示させます。



```
LTC O/P:  
  
FPS: 29.97  
Level: MIC
```

ステータス	説明
FPS	UltraSync ONEの1秒あたりのフレームレート。これは、接続されたデバイスのFPSに一致する必要があります (1秒当たりのフレームレートを設定する P78参照)。
レベル	LTC出力の電圧レベル (SYNC出力を設定する P81参照)。

Chapter 6 BLINK Hub

スマートフォンまたはタブレット上で無料のBLINK Hubアプリケーションを使用すると、UltraSync ONEの一部の設定をリモートで変更することができます。また、BLINK Hubを使って、一部のステータス情報を表示することができます。

BLINK Hubの詳細については、以下をご参照ください：

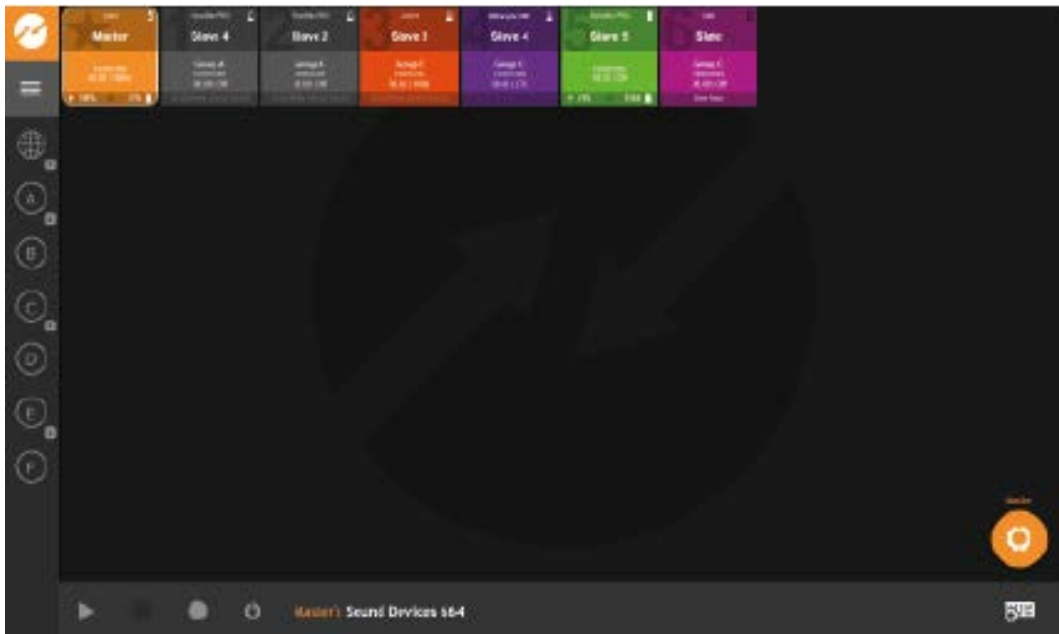
BLINK Hubを使用するリモート設定	100
----------------------------	-----

BLINK Hub

BLINK Hubを使用するリモート設定

タブレット、スマートフォン、デスクトップコンピュータを経由して、UltraSync ONEの一部の設定をリモートで変更することが可能です。設定するには以下が必要です：

- ネットワークにおけるマスターとして動作するTimecode Systems :pulseまたは:wave
- 無料のBLINK Hubアプリケーション



BLINK Hubでは、UltraSync ONEを含むBLINKネットワーク内の各デバイスの情報を、独自のステータスパネルで確認できます。

また、BLINK Hubを使って、以下を含むUltraSync ONEの一部の設定を変更することができます：

- 名称
- ユーザービット
- 輝度



Tip: :pulseおよび:waveに関する情報については、www.timecodesystems.comにアクセスするか、お近くの販売店にお問合せください。

Chapter 7

保証および適合

保証および適合宣言については、以下をご参照ください：

保証	102
品質に関する宣言	103
EC適合宣言	105

Warranty and Conformity

保証

Timecode Systems Limitedにより販売されるすべての製品は、購入日から1年間、材料および製造上の欠陥について、オリジナルの購入者に保証されます。

ただし、この保証には付属品、バッテリー、ケーブルは含まれていません。また、この保証は、Timecode Systems Limitedが保障範囲内と定めた装置にのみ適用され、お客様の改造、改変、過失または誤用を行った装置には適用されません。

本保証の対象となる欠陥が生じた場合、Timecode Systems Limitedは、唯一の選択肢として、欠陥のある機器を無償で修理または交換します。保証サービスを受けるには、不良品を購入から1年間以内に返品する必要があります：

TIMECODE SYSTEMS LIMITED

宛先 : Repair Department

Unit 6, Elgar Business Centre

Moseley Road, Hallow

Worcester, WR2 6NJ, UK

電話 : +44 (0) 1700 808 600

すべての運送および輸送費用は、購入者の責任となります。

品質に関する宣言

外部アンテナの使用

このデバイスは、カナダ産業省およびFCCによって、最大許容利得5.4dBiおよび表示されている各アンテナタイプごとに50Ωの必須アンテナインピーダンスで、下記のアンテナタイプで動作することが承認されています。このリストに含まれていないアンテナタイプ (そのタイプで示されている最大出力より大きい出力を有する) は、このデバイスでの使用は厳重に禁止されています。

名称 : Linx Model ANT-916-MHW-RPS-S (with adapter Amphenol model 242141RP or equiv)

RF曝露警告に関する声明 :

一般住民/未制御曝露に対するFCC/IC RF曝露制限に適合するために、この送信機に使用される外部アンテナは、すべての人から少なくとも20cmの離隔距離を維持して設置する必要があります。また、他のアンテナまたは送信機と同じ位置に配置したり、連携して動作させることはできません。

FCC警告に関する声明 :

このデバイスは、FCC規則第15部に準拠しています。

使用には次の2つの条件があります :

- (1) このデバイスは、有害な干渉を引き起こす可能性がない。
- (2) このデバイスは、望ましくない動作を引き起こす可能性のある干渉を含め、受信される干渉を受け入れなければならない。

このデバイスは、制御されていない環境に対して設定されたFCCの放射線被曝限度を遵守しています。エンドユーザーは、RF曝露に適合するための具体的な取扱説明書に従わなければなりません。このデバイスは、他のアンテナまたは送信機と同じ場所に配置したり、連携して動作させたりしてはなりません。

遵守の責任を負う当事者によって明示的に承認されていない変更または修正を行うと、利用者がこのデバイスを使用する権限が無効になる可能性があります。

カナダ産業省の声明：

このデバイスは、カナダ産業省ライセンス免除RSS規格に準拠しています。使用には次の2つの条件があります：(1) このデバイスは、有害な干渉を引き起こす可能性がありません。また、(2) このデバイスは、望ましくない動作を引き起こす可能性のある干渉を含め、受信される干渉を受け入れる必要があります。

Le présent appareil est conforme aux CNR d'Industrie Canada applicables aux appareils radio exempts de licence. L'exploitation est autorisée aux deux conditions suivantes : (1) l'appareil ne doit pas produire de brouillage, et (2) l'utilisateur de l'appareil doit accepter tout brouillage radioélectrique subi, même si le brouillage est susceptible d'en compromettre le fonctionnement.

カナダ産業省 - クラスB：このデジタルデバイスは、カナダ産業省のICES-003「デジタル装置」と題された干渉を引き起こす装置の規格に規定されている通り、デジタル装置からの無線ノイズ放射のクラスBの制限を超えていません。

Cet appareil numérique respecte les limites de bruits radioélectriques applicables aux appareils numériques de Classe B prescrites dans la norme sur le matériel brouilleur: "Appareils Numériques," NMB-003 édictée par l'Industrie.

カナダ産業省の規制の下、このデバイスは、カナダ産業省が送信機用に承認した最大（またはより小さい）出力のアンテナを使用した場合のみ動作します。他の利用者に対する潜在的な電波干渉を低減するために、等価等方放射電力 (e.i.r.p.) が通信を成功させために必要なもの以下となるよう、アンテナのタイプとその出力を選択する必要があります。

EC適合宣言

弊社、

会社名 : Timecode Systems Ltd.

所在地 : Unit 6, Elgar Business Centre

Moseley Road, Hallow, Worcester WR2 6NJ UK

は、本適合宣言が弊社の単独の責任のもと発行されており、以下の製品が適合することを宣言します :

製品種別	ワイヤレスタイムコード同期アクセサリ
モデル	UltraSync ONE
FCC ID	AYV- USYN01
IC ID	10427A- USYN01

宣言の対象 :



上記宣言の対象は、関連する欧州連合整合法令に適合しています :

EMC指令2014/30/EU

低電圧指令 (LVD) 2014/35/EU

R&TTE指令1999/5/EC

次の整合規格および技術仕様が適用されています：

EN 300 220-2	V2.4.1:2012
EN 301 489-3	V1.6.1:2013
EN 55024	2010
EN 55032	2012

Paul Scurrall

Timecode Systems

Chapter 8

トラブルシューティングおよび

FAQ

本章では、トラブルシューティング情報、よくある質問に対する回答、UltraSync ONEをリセットする手順を説明します。ここに記載されていない問題が発生した場合、

<https://support.timecodesystems.com> にアクセスし、最新のFAQおよびマニュアルを参照してください。

トラブルシューティング	108
工場出荷時設定に復元する	111
リセット	112
FAQ (よくある質問)	113

Troubleshooting & FAQs

トラブルシューティング

UltraSync ONEの設定に問題がある場合、以下のトラブルシューティングをお試しください：

- UltraSync ONE スレーブがマスターに接続されません (P109参照)
- UltraSync ONEスレーブが誤ったマスターに接続されます (P109参照)
- UltraSync ONEの[**Select**]ボタンが反応しません (P109参照)
- UltraSync ONEのバッテリーが充電されません (P110参照)

ここに記載されていない問題が発生した場合、

<https://support.timecodesystems.com> にアクセスし、最新のFAQおよびマニュアルを参照してください。

UltraSync ONE スレーブがマスターに接続されません

UltraSync ONEがマスターデバイスからタイムコードを受信していない場合、以下の原因が考えられます：

- マスターデバイスがオフになっています。マスターデバイスがオンであり、十分にバッテリーが充電されていることを確認します。
- UltraSync ONEがマスターTXモードに設定されていないか確認します。UltraSync ONEは、RFスレーブモードで動作している場合のみ、マスターデバイスに接続することができます。詳細情報については、ネットワークとモード (P23) をご参照ください。
- マスターが範囲外です。UltraSync ONEは、マスターが範囲内に戻るまで、独自のタイムコード設定を使用します。UltraSync ONEが、独自のタイムコード設定を使用しているとき、「フリーラン」していると言います。
- UltraSync ONEがマスターと同じRFチャンネルを使用するよう設定されていません。UltraSync ONEスレーブ-マスター通信は、同じRFネットワーク内のデバイス間でのみ行われます。詳細情報については、RFチャンネルを設定する (P72) をご参照ください。
- UltraSync ONEやその他のマスターデバイスに正しい国/地域が設定されていません。UltraSync ONEおよびマスターに使用されている国/地域を設定する必要があります。(RF周波数の国/地域を設定する (P68) をご参照ください)。

UltraSync ONEスレーブが誤ったマスターに接続されます

UltraSync ONEがスレーブモードで動作している際に誤ったマスターデバイスに接続される場合、同じRFネットワーク内に複数のマスターが存在する可能性があります。1つのRFネットワークに存在できるマスターは1台のみです (ネットワークに対して固有のRFチャンネルを使用するマスターは1台のみ)。詳細については、クイック設定：マスターTXとしてのUltraSync ONE を参照してください。

UltraSync ONEの[Select]ボタンが反応しません

[Select]ボタンを押しても、UltraSync ONEにメニューが表示されないときは、リセット (P112参照) をお試しください。

UltraSync ONEのバッテリーが充電されません

USB-C充電器の使用時に、UltraSync ONEのバッテリーが充電されない場合：

1. UltraSync ONEをオフに切り替えます (UltraSync ONEのオンとオフを切り替える P11参照)。
2. UltraSync ONEのUSB-Cポートが汚れていないことを確認します。USB-Cポートは、収納時や運搬時、撮影時の汚れや埃により詰まる恐れがあります。
3. 別の充電器を試します。
4. 別のケーブルを試します。

問題が解決しない場合は、Timecode Systemsにお問い合わせください。

工場出荷時設定に復元する

[Set Factory Defaults]を選択することにより、UltraSync ONEを初期状態にリセットすることができます。これは、例えば、UltraSync ONEを別のネットワークに移動するときなど、完全に新しい設定でUltraSync ONEを使い始める場合に有効です。



Note: 既存の設定を残したままでUltraSync ONEをリセットする場合は、リセット (P112) をご参照ください。

UltraSync ONEを工場出荷時設定に復元するには：

1. UltraSync ONEのスイッチがオンになっていることを確認します (UltraSync ONEのオンとオフを切り替える P11参照)。
2. [Select] ボタンを押します。
3. [Up]ボタンと [Down]ボタンを使用して、[System Settings]オプションにスクロールします。
4. [Select] ボタンを押します。
5. [Up]および[Down]ボタンを使って、[Set Factory Defaults]までスクロールします。
6. [Select] ボタンを押します。UltraSync ONEのすべての設定は、標準の状態にリセットされ、メイン画面が表示されます。

リセット

万が一、UltraSync ONEが反応しなくなったり、メニューにアクセスできなくなったりした場合には、リセットを行う必要があります：

1. **[Up]**および**[Down]**ボタンを同時に押し続けます。ボタンを押し続けると、画面がちらつくことがあります。正常な動作です。
2. **[Up]**および**[Down]**ボタンをUltraSync ONEがオフに切り替わったように見えるまで押し続けます。
3. **[Up]**および**[Down]**ボタンを離します。UltraSync ONEが再起動します。

UltraSync ONEが再起動するとき、リセットする前の全設定が保持されています。再起動しても改善しない場合は、工場出荷時リセットを試みてください。工場出荷時リセットは、UltraSync ONEを初期設定に復元します。したがって、既存の設定は失われます (工場出荷時設定に復元する P111参照)。

FAQ (よくある質問)

本章では、UltraSync ONEに関するよくある質問と、これらに対する回答を提供します。回答が掲載されていない場合は、Timecode Systemsにお問い合わせください。

UltraSync ONEをマスターユニットとして使用することはできますか?

はい。UltraSync ONEは、タイムコードをRFで送受信できるトランシーバーです。したがって、RFネットワークにおいて、マスター送信ユニットまたはスレーブ受信ユニットとして設定することができます。BLINKネットワークにおけるマスターとして使用することはできません。

マスターフレームは、ドロップフレームタイムコードを使用することができますか?

はい。UltraSync ONEは、ドロップフレームレートおよび標準フレームレートを使用することができます。

UltraSync ONEの再同期には、どのくらいの時間がかかりますか?

UltraSync ONEが、マスターの範囲外に移動した場合、マスターと同期できなくなりますが、マスターの範囲内に戻ったとき、マスターと再同期します。再同期までにかかる時間は異なる場合があります：

UltraSync ONE範囲外にいた期間	再同期にかかるおおよその時間
10秒未満	ほぼ瞬時
10秒以上	数秒



Note: 範囲内に他のマスターがある場合、再同期にかなりの時間がかかる可能性があります。これは、他のマスターが異なるRFチャンネルを使用している場合でも同様です。

Chapter 9

安全性および廃棄について

UltraSync ONEおよびそのバッテリーについて安全性およびリサイクルに関する重要な情報をお読みください：

バッテリーの安全性および廃棄について116

Safety and Disposal

バッテリーの安全性および廃棄について

UltraSync ONEには、バッテリーが搭載されています。バッテリーには有害な重金属が含まれている可能性があり、有害廃棄物規制の対象となります。

UltraSync ONEを安全かつ責任を持って、使用かつ廃棄するために、次の安全および廃棄に関する指示事項を遵守してください。

バッテリーの安全性について

危険 - 火傷、怪我、バッテリーの損傷の危険性があります

バッテリーを取り外したり、分解しようとしたりしないでください。

バッテリーを熱源または液体に曝さないでください。

60℃以上の温度で、バッテリーを充電しないでください。

バッテリーを曲げたり、突き刺したり、潰したりしないでください。

バッテリーが金属に接触しないようにしてください。

バッテリーを溶接しないでください。

ユーザーガイドに説明される通りにのみ、製品を使用し、バッテリーを充電してください。誤った使いかたをすると、火災、爆発、煙、熱、バッテリーの漏れが発生する恐れがあります。

損傷したバッテリーを使用しないでください。

製品またはバッテリーを電子レンジ、乾燥機、高圧容器に入れしないでください。

予定された時間を過ぎてもバッテリーが充電されない場合は、充電を中止し、Timecode Systemsにお問い合わせください。

使用中、充電中、保管中に製品に異常な熱、臭い、変色、変形が発生した場合は、使用を中止してください。

バッテリー漏出物が皮膚または衣服に付着した場合は、直ちにきれいな水で洗い流してください。

バッテリーから液体が目に入った場合は、擦らないようにしてください。目をきれいな水で洗い流し、直ちに医師の診断を受けてください。

廃棄およびリサイクルについて

ご利用のUltraSync ONE、そのバッテリー、または、充電器などの付属品を家庭ごみと一緒に**廃棄しない**でください。必ず、バッテリーの廃棄およびリサイクルに関する現地の法的要件を順守してください。



適切な方法でバッテリーを廃棄することにより、バッテリーに不適切な取り扱いにより引き起こされる可能性のある環境および公共の健康に与えるリスクを回避することができます。また、リサイクルすることにより、天然資源の節約に貢献することができます。

廃棄およびリサイクルに関する更なる情報については、Timecode Systemsにお問い合わせください。

索引

B

Blink Hub 99
BLINK Hub 100
BLINKネットワーク 30, 72

D

DIN - BNC ケーブル 17
Down ボタン 15

E

EC適合宣言 105
EXT LTC入力 37, 48

F

FAQ (よくある質問) 113
FCC警告に関する声明 103
FPSマスター 78
FPSモード 20
Free Run/Jam-Ext 64

L

LED 14
 緑色 14
 赤色 14, 18
 輝度 85
 青色 14
LTCレベル 84

LTC入力 20
LTC出力 20
LTC出力ステータス 97

O

OLED 13, 20
Output via SYNC 44

R

RF 国/地域 68
RFスレーブ 36, 55
RFチャンネル 72
RFネットワーク 30
RF曝露警告に関する声明 103

S

Select ボタン 15
SYNC 44
SYNC出力 20, 81
SYNC出力ステータス 96
SYNC経由のLTC出力 81

T

TCG 95
TCR 95
TCジェネレーター 64, 77-78, 80
Timecode Systems 連絡先 102

U

Up ボタン 15

あ

アンテナ 21

アンテナアイコン 26, 92

お

オーストラリア 68

オフ 11-12

オン 11

か

カナダ 68

カナダ産業省の声明 104

く

クイックセットアップ 45

け

ゲンロック出力 20, 81

し

システム設定 85

ジャミング 40

シリアル番号 93

す

スイッチオフ 12

スイッチオン 11

スクリーンセーバー 87

ステータスインジケータ LED 14

ステータス情報 91

スレーブ 24, 36

た

ダイバーシティ 21

タイムコード 77

タイムコードモード 69

タイムコード入力 20

タイムコード出力 20

て

ディスプレイ 13

回転 88

ディスプレイの反転 88

ディスプレイの回転 88

ディスプレイ設定 86, 88

デジタルトランシーバー 21

と

トラブルシューティング 108

ドロップフレームタイムコード 113

に

ニュージーランド 68

ね

ネットワーク 23

は

バージョン番号 93

バッテリー 18, 94

LED 18

アイコン 18

使用可能時間 18

充電 18

充電時間 18

寒い環境 18

暑い環境 18

残り充電わずか 18

バッテリーステータス 94

バッテリー持続時間 20

ふ

フレームのずれ 20

ほ

ポート 16

ボタンロック 89

ボタンを押して 89

ま

マスター 24

マスターFPS 78

マスターTX 34

マスタータイムコード 77

マスターのタイムコード 77

マルチチャンネルデジタルトラン
シーバー 21

め

メイン画面 92

も

モード 23

ゆ

ユーザービット 79

よ

ヨーロッパ 68

ヨーロッパ/英国 68

り

リサイクル 115

リセット 112

リモートモニタリング 100

リモート制御 100

わ

ワードクロック出力 20, 81



Timecode Systems
Unit 6, Elgar Business Centre, Hallow
Worcester, WR2 6NJ, UK
+44 (0) 1700 808 600
contact@timecodesystems.com

<http://www.timecodesystems.com>